



つくる つながる 子育て支援

～岡山市就学前親子の居場所の望ましいあり方に関する報告書～

岡山市岡山っ子育成局子育て支援部 地域子育て支援課
特定非営利活動法人岡山市子どもセンター

正誤表

『つくる つながる 子育て支援 ～岡山市就学前親子の居場所の望ましいあり方に関する報告書～』の内容に誤りがありましたので、下記の通り訂正いたします。

ページ	修正箇所	誤	正
6	(3)①みんな和やかサロン	開所日数は 177 日	開所日数は 176 日
6	同	10.3 世帯、大人 10.4 人	10.4 世帯、大人 10.5 人
7	図 1-2-1 利用状況 令和 3 年度 7 月の開所日数	12	11

はじめに

国の定めた子ども・子育て支援法に基づく基本指針では、核家族化、地域関係の希薄化、少子化などの子どもの育ちや子育てをめぐる環境の変化により、子育てに不安感や孤立感などを感じる人が増えており、子どもの育ちと子育てを行政や地域社会をはじめ、社会全体で支援していく必要があるとされています。岡山市による「子ども・子育て支援に関するアンケート調査」においても「子育てや日常生活のことを話し合える人がいる」と回答した未就学児がいる人の割合は、平成 28 年度調査の 41.1%から平成 30 年度調査では 27.5%へ減少するなど、子育ての孤立化がみられています。

これらの不安感や孤立感を解消するためには、地域の身近な場所で、子育て親子が気軽に集い、相互交流や子育ての不安や悩みを相談できる場を提供することが必要といわれています。国は、子ども・子育て支援法に規定された地域子ども・子育て支援事業のひとつとして、地域子育て支援拠点事業（以下「拠点事業」という。）を定めており、岡山市でも拠点事業をはじめ、類似事業である子育て広場などを実施しています。なお、岡山市では拠点事業を保育所、認定こども園、児童館の 44 か所で実施しています（令和 4 年 3 月現在）。

しかしながら、平成 31 年度「岡山市就学前親子の居場所」に関する調査（平成 31 年度岡山市市民協働推進ニーズ調査事業、以下「ニーズ調査」という。）では、回答者の拠点事業などの認知度や利用希望、利用状況のそれぞれについて、「知っている」が 73.7%であったのに対し、「利用したい」は 48.4%、「利用している」は 16.5%であり、知っていて、利用したいと思っているが、利用につながっていない状況が明らかになりました。特に未就園児の拠点事業などの利用希望の平均は 60.7%と、就園児に比べて高い結果となりました。また、未就園児親子の居場所のニーズとして、「子どもが家ではできない遊びや新しい遊びを体験できる」「体を動かして遊ぶスペースがある」への期待が 80%を超えるなど、子どもの遊び環境に関するニーズも高いことが明らかになりました。

これらの調査結果を踏まえ、岡山市岡山っ子育成局子育て支援部地域子育て支援課（以下「岡山市地域子育て支援課」という。）と特定非営利活動法人岡山市子どもセンター（以下「岡山市子どもセンター」という。）が岡山市市民協働推進事業の仕組みを活用し、親子が安全に安心して過ごすことのできる「就学前親子の居場所づくり事業」を 2 年間、試行錯誤しながら進めてきました。毎月、アドバイザーの研究者（新見公立大学 八重樫牧子 特任教授）をはじめ、伴走支援の ESD・市民協働推進センターとともに、就学前親子の居場所づくり事業全体について協議を重ね、理念と目的の明文化、年間目標を設定しました。

居場所の運営については岡山市子どもセンターが主に担当し、月目標や日々の活動目標を設定して「みんな和やかサロン」を運営、振り返りや定期的な事業評価の実施など PDCA サイクルを意識して取り組みました。加えて、利用者アンケートも行い、より利用者の主体性を尊重し、子どもの健やかな育ちを支援する、質の高い居場所づくりを目指してきました。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、計画通りにできなかったこともありますが、その都度スタッフ間で協議し、より良い支援につなげてきました。

本冊子は、第 1 章 事業概要 (Plan)、第 2 章 実践内容・実践結果 (Do)、第 3 章 調査結果・評価 (Check)、第 4 章 就学前親子の望ましい居場所のあり方 (Action) で構成されています。これから子育て支援を始めようとする方やすでに現場で子育て支援を頑張っている方に活用していただき、より良い就学前親子の居場所づくりの一助となれば幸いです。

目次

はじめに	1
------	---

第1章 事業概要

1. 岡山市市民協働推進事業「就学前親子の居場所づくり事業」	4
2. みんなん和やかサロンの運営	5

第2章 実践内容・実践結果

I. 居場所(環境)整備	9
II. 子ども・親子・親同士の交流の場	13
III. 子ども(遊び)の支援	15
IV. 親(子育て)の支援	18
V. 子育て相談(配慮を必要とする子育て家庭の支援を含む)	22
VI. 地域支援	24
VII. 運営	27

第3章 調査結果・評価

1. 令和2年度と3年度の事業評価	29
2. 令和2年度と3年度の支援に関するグループ・インタビュー調査	32
3. 子育て不安や居場所ニーズ・評価に関するプレ(事前)調査とポスト(事後)調査	34
4. 令和2年度と3年度のサロンの利用に関するグループ・インタビュー調査	36
5. 調査結果・評価のまとめ	37

第4章 就学前親子の望ましい居場所のあり方

I. 居場所(環境)整備	38
II. 子ども・親子・親同士の交流の場	38
III. 子ども(遊び)の支援	39
IV. 親(子育て)の支援	39
V. 子育て相談(配慮を必要とする子育て家庭の支援を含む)	40
VI. 地域支援	40
VII. 運営	41

みなん和やかサロンの参考資料

① 「就学前親子の居場所」に関する調査報告書(ダイジェスト版)	43
② 年間目標表	44
③ 月目標記入用紙(ねらいと振り返り)	46
④ 1日の流れ(スタッフ用)と名札	47
⑤ 利用者カード	48
⑥ 日誌	49
⑦ リーフレット	50
⑧ おたより	51
⑨ 安全管理マニュアル	52
⑩ 令和2年度・3年度の子育て講座一覧表	54
⑪ 令和2年度・3年度のスタッフ施設見学・研修一覧表	55

調査結果の参考資料

表3-1-1 令和2年度と3年度の事業評価	56
表3-2-1 第1回スタッフのグループ・インタビュー調査結果の内容分析	57
表3-2-2 第2回スタッフのグループ・インタビュー調査結果の内容分析	58
表3-3-1 子育て不安のプレ・ポスト調査の比較	60
表3-3-2 居場所ニーズ・評価のプレ・ポスト調査の比較	60
表3-3-3 プレ・ポスト調査結果の自由記述の内容分析	61
表3-4 利用者のグループ・インタビュー調査結果の内容分析	62
参考文献	63
おわりに	64

第1章 事業概要

1. 岡山市市民協働推進事業「就学前親子の居場所づくり事業」

(1) 目的と経過 (参考資料①② P43～45)

岡山市が施策として展開している拠点事業などにおいては、具体的な設備や子育て支援の実施内容については、運営事業者によるところが大きいという実態があります。そこで、ニーズ調査結果などを踏まえた実践を通して、就学前親子の望ましい居場所のあり方を明らかにするため、岡山市市民協働推進事業「就学前親子の居場所づくり事業」(以下「事業」という。)として、「みんな和やかサロン」を開設しました。

本事業では、ニーズ調査結果などから年間目標を設定し、「みんな和やかサロン」を運営、その取組を評価し、就学前親子の居場所のあり方を検討しました。

今後、本事業で得られた成果をもとに、就学前親子の居場所がさらに充実することで、子育てへの不安感や孤立感の解消、健やかな子どもの育ちの促進につながることを目指しています(図1-1-1)。



図1-1-1 事業の目的と経過

(2) 事業の実施体制

本事業の実施にあたり、岡山市地域子育て支援課と岡山市子どもセンター、さらにアドバイザーを加えて、主に下図のような役割分担と2つのミーティングを毎月開催して事業を進めました(図1-1-2)。

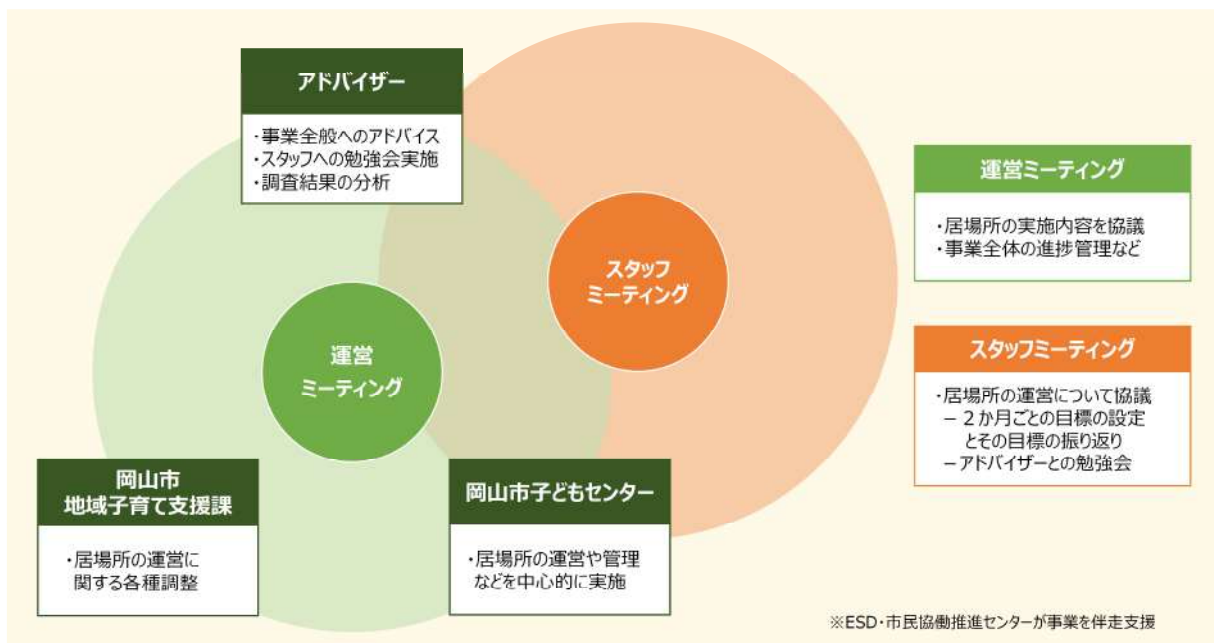


図1-1-2 事業の実施体制

本事業では、ニーズ調査結果などを踏まえて設定した年間目標の達成に向けて、PDCA を意識しながら具体的な実施内容などを協議しました(図 1-1-3)。

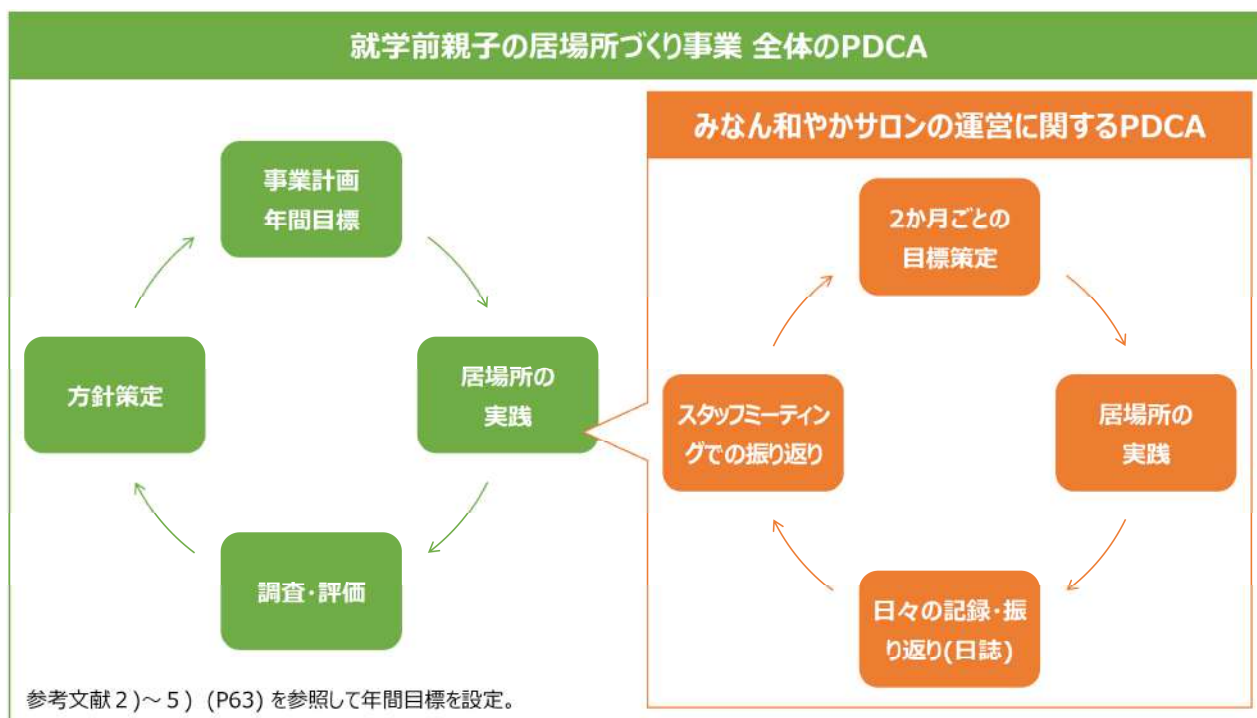


図 1-1-3 事業の PDCA

2. みんなん和やかサロンの運営

(1) 目的

みんなん和やかサロンは、親子が気軽に集い、親同士の相互交流や相談ができる場、子ども同士が異年齢の中で遊べる場などを設置することにより、参加する子育て親子の不安感や孤立感の解消を図るとともに、子どもの健やかな育ちを支援することを目的に開設しました。

(2) 取組内容

① 運営 (参考資料③④⑨⑩ P46~47、52~54)

御南中学校区にあるベターライフ御南(旧白石幼稚園内)にて、火・水曜日は主に未就園児を対象に午前、木曜日は主に就園児を対象に午後、各日 3 人のスタッフでみんなん和やかサロンを運営しました。子どもや親の主体性を大切にした寄り添い型の子育て支援を重視し、外(園庭)を積極的に活用した遊びを推奨し、遊び環境の整備に取り組みました。また、ニーズ調査結果や利用者の声をもとに企画した子育て講座を月 1 回程度開催しました。このほか、手作りおもちゃの作成、近隣への散歩など利用者のニーズに応じたイベントも随時行いました。さらに、令和 3 年度は毎月 1 回、大元中央公園にて出張ひろばを開催しました。



<p>名称：みんな和やかサロン 場所：岡山市北区久米348番地 (ベターライブ御南) 時間：火・水曜日10時～13時 木曜日14時～16時 運営：スタッフ6人(各日3人)</p> <ul style="list-style-type: none"> * 毎月1回スタッフミーティング * 月1回程度、子育て講座を開催 (発達、絵本、メディア、遊び、食事など) * 季節の遊び、手作りおもちゃの作成、 近隣への散歩などの利用者のニーズに 応じたイベントを随時開催 		<p>名称：出張ひろば ～親子で楽しく集いましょう～ 場所：大元中央公園 (雨天時：岡山市立大元公民館) 時間：毎月1回 10時～13時</p> <p>運営：スタッフ3人</p> <ul style="list-style-type: none"> * ダンボール遊び、どんぐりコロコロ、 ままごと遊び、フープ遊び、絵本の 読み聞かせ、手遊びなど 	
---	---	--	---

②記録 (参考資料⑤⑥ P48～49)

初回利用者には利用者カードを記入してもらい、家族形態やアレルギーの有無などを把握しました。スタッフは、日誌に利用者数や遊びの内容・気づいたこと、相談内容、利用者の様子の変化などを記録するとともにスタッフ間で共有し、その日のサロンの運営とスタッフの対応や声かけについて振り返りを行いました。

③広報 (参考資料⑦⑧ P50～51)

毎月発行のおたよりを町内で回覧したほか、近隣の公民館、認定こども園、郵便局に配布して掲示を依頼するなど、地域住民との関わりを大切にしました。さらに、サロンについて多くの方に知ってもらうために、定期的にホームページやSNSでも日々の様子を発信しました。



④研修 (参考資料⑩ P55)

アドバイザーとの勉強会では、子育て支援をするうえで基本となる知識・技術・態度を学びました。また、気になる親子について専門家から事例をもとに対応を学び実践に生かしました。このほかにも、地域子育て支援拠点の施設見学やさまざまな分野の研修に参加してスキルの向上を図りました。



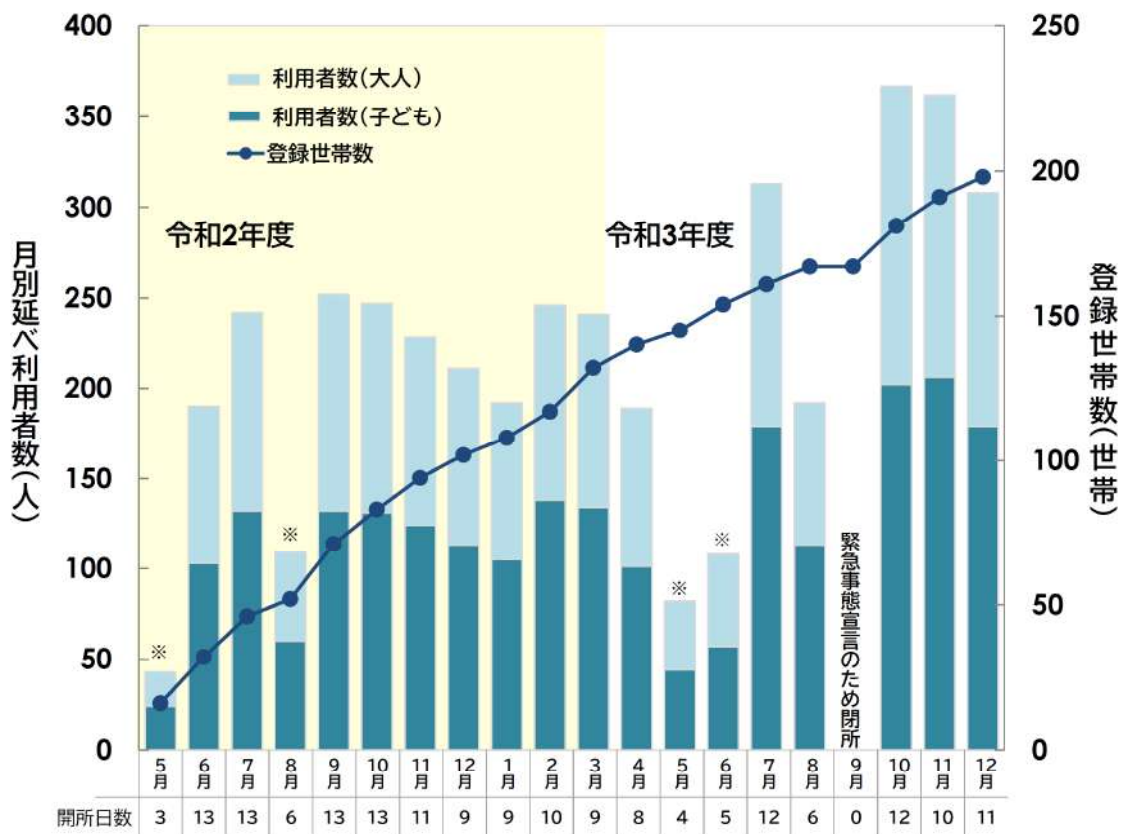
(3) 利用状況

①みんな和やかサロン

令和2年5月から令和3年12月末日現在で開所日数は177日、登録世帯数198世帯、延べ利用者数4,122人(1日平均:10.3世帯、大人10.4人、子ども12.9人)でした(図1-2-1)。利用者の居住地域は、御南中学校校区および隣接学区が8割以上でした(図1-2-2)。

②出張ひろば

令和3年度は出張ひろばを開催しました。ニーズ調査や令和2年度のサロンの利用状況から身近な居場所の必要性を感じ、開催場所を岡山市が地域子育て支援拠点をまだ設置していない地域から探し、桑田中学校校区の大元中央公園にしました。12月末日までに5回開催しました(表1-2)。出張ひろばには、地域のおやこクラブの方々や通りがかった親子が参加しました。さらに、出張ひろばを通じてサロンの存在を知り、利用につながった親子もいました。



※まん延防止等重点措置・緊急事態宣言のため閉所した日あり

図 1-2-1 利用状況 (月別延べ利用者数、登録世帯数、開所日数)

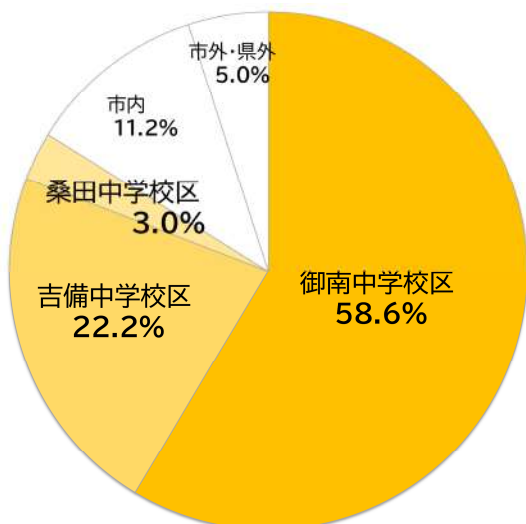


図 1-2-2 利用者の居住地域

表 1-2 出張ひろばの利用者数

No.	日付	利用者数など
1	4/23 (金)	4世帯 (大人4人、子ども4人)
2	5/14 (金)	まん延防止等重点措置・緊急事態宣言のため中止
3	6/11 (金)	
4	7/9 (金)	0世帯 (10時頃、大雨警報発令のため途中で中止)
5	8/17 (金)	まん延防止等重点措置・緊急事態宣言のため中止
6	9/17 (金)	
7	10/22 (金)	13世帯 (大人13人、子ども15人)
8	11/19 (金)	15世帯 (大人15人、子ども15人)
9	12/10 (金)	18世帯 (大人18人、子ども23人)

第2章 実践内容・実践結果

子育てに関する不安感や孤立感の解消を図るとともに、利用者の主体性を尊重し、子どもの健やかな育ちを支援し、安全に安心して過ごせる居場所として、みんな和やかサロンを運営しました。以下のような項目で年間目標を設定して、実践に取り組んできました。具体的な実践内容とその結果について事例を紹介します。さまざまな居場所での活動のヒントになることを期待しています。

年間目標：Ⅰ～Ⅶ 目 標：21 具体的目標：①～④⑩	Ⅰ.居場所(環境)整備 1.環境空間(ハード面)を整備する 2.環境構成(ソフト面)を整備する 3.安全対策・衛生管理をする	Ⅱ.子ども・親子・親同士の交流の場 1.スタッフと利用者との関係づくりをする 2.利用者同士の関係づくりをする
	Ⅲ.子ども(遊び)の支援 1.子どもとの関わりを深める 2.子ども一人ひとりの発達や個性を理解する 3.子どもの主体性を尊重し自由な遊びを支援する(子どものエンパワメント)	Ⅳ.親(子育て)の支援 1.親との関わりを深める 2.一人ひとりの子育てを理解する 3.親の主体性を尊重し、子育てを支援する(親のエンパワメント) 4.子育てに関する情報を提供する 5.子育て講座等を開催する
Ⅴ.子育て相談 (配慮を必要とする子育て家庭の支援を含む)	Ⅵ.地域支援 1.地域の人と交流する機会をつくる 2.地域へのアウトリーチを行う 3.地域の子育て支援者とのネットワークづくりを行う	Ⅶ.運営 1.活動および運営に関する業務を円滑に行う 2.スタッフのスキル向上を図る 3.守秘義務を守る

(参考資料② P44～45)

～事例の見方～

年間目標：Ⅰ～Ⅶ

Ⅰ.居場所(環境)整備

目標：21

具体的目標：①～④⑩

日々の活動内容に関するポイント

1. 環境空間(ハード面)を整備する
 - ① 設備(コーナー)・備品(外遊び・室内遊びのおもちゃ等)を整備する
・赤ちゃんコーナー ・食事コーナー ・発達段階に応じたおもちゃや遊具
2. 環境構成(ソフト面)を整備する
 - ② 居心地のよい場をつくる
 - ③ 安心感のある場をつくる
3. 安全対策・衛生管理をする
 - ④ 施設・遊具の安全点検・安全管理を行う
 - ⑤ 事故やケガの緊急時対応を行うための体制を整える
 - ⑥ 感染症や中毒への対応を整える
 - ⑦ 防災・防犯対策を整える

1.環境空間(ハード面)を整備する

0歳児も外で遊べるよ♪(Ⅰ-1-①)

背景・課題	実践内容	実践結果
▲▲	▽▽	××

社会状況やニーズ調査結果から出た背景・課題に対して、目標やポイントを踏まえた実践内容と実践結果を事例として紹介しています。

(Ⅰ-3-⑥)

「コラム」には、サロンでの出来事などを掲載しています。



I. 居場所(環境)整備

1. 環境空間(ハード面)を整備する

① 設備(コーナー)・備品(外遊び・室内遊びのおもちゃ等)を整備する

- ・赤ちゃんコーナー ・食事コーナー ・発達段階に応じたおもちゃや遊具 ・季節の遊び
- ・遊びやすく片づけやすい工夫(写真の掲示)

2. 環境構成(ソフト面)を整備する

② 居心地のよい場をつくる

- ・自然光 ・自然の音 ・季節感 ・くつろげる空間

③ 安心感のある場をつくる

- ・初回利用者に対する話しかけ ・スタッフの振る舞い(身だしなみ、表情、話し方)

3. 安全対策・衛生管理をする

④ 施設・遊具の安全点検・安全管理を行う

- ・安全点検簿 ・定期点検 ・遊具の利用方法

⑤ 事故やケガの緊急時対応を行うための体制を整える

- ・緊急時対応マニュアル ・緊急時連絡先 ・医療機関などのリスト ・必要な物品を常備

⑥ 感染症や中毒への対応を整える

- ・清掃・消毒マニュアル ・予防対策 ・必要な物品を常備

⑦ 防災・防犯対策を整える

- ・防災・防犯マニュアル ・定期訓練 ・緊急時連絡先 ・必要な物品を常備

1. 環境空間(ハード面)を整備する

0歳児も外で遊べるよ♪ (I-1-①)

背景・課題	実践内容	実践結果
0歳児の親は外に出かけても「まだ歩けないから」と抱っこしたまま室内にこもりがち。また、子どもが土を口に入れることを恐れて、外遊びを制限して成長の機会を逃している。	外にマットを敷き、0歳児でも遊べる空間をつくっている。土を触りに行くこととするのを止めようとする親に「土や小石を何だろうと思う気持ちを大切に、少し様子を見てみよう」と伝えて子どもの成長の機会をつくっている。	園庭で親はゆったりほかの利用者と交流し、0歳児はマットの上で寝返りを打つなど自分の身体で遊ぶようになった。スタッフの発達段階の説明に納得して、子どもの様子を見守るようになった。

季節の遊びをしよう！～落ち葉遊び～ (I-1-①)

背景・課題	実践内容	実践結果
日々忙しく、季節を感じることもままならず、四季折々の遊びをするゆとりもないため、外遊びの良さも感じづらい親が多い。	木の周りにほうきやちりとり、熊手などの落ち葉集めの道具を置いて、大人が落ち葉集めをしてみせている。自然にふれあう機会をつくっている。	大人の真似をして、子どもが自らほうきを持って落ち葉集めに挑戦し始めた。真似をすることを楽しんでいるだけでなく、落ち葉に気がつくなど、秋の自然の遊びを楽しんだ。

子どもの「遊びたい気持ち」を大切に！ (I-1-①)

背景・課題	実践内容	実践結果
居場所に到着すると、親は荷物を置いて名札をつけるなどの決まりごとがあるため、子どものすぐにも遊びたいという気持ちを「待って」と抑えてしまうことがある。	外遊びの道具と一緒に園庭に名札を用意している。遊び始めてからタイミングを見て名札をつけるように促している。来所時の手続きはルールを決めすぎないようにしている。	到着してすぐに遊び始められる環境づくりにより、子どもの遊びたいという気持ちをすぐに受け止めることができた。来所時の手続きはその時々に応じた対応をするため、親とスタッフがコミュニケーションを取る機会にもなった。

2. 環境構成(ソフト面)を整備する

五感を育てる環境づくり (I-2-②)

背景・課題	実践内容	実践結果
家ではテレビ、照明、冷暖房などを 使うことが多く、子どもは暑さや寒 さ、日差しなどの自然環境にふれる 機会が少ない。	自然光や自然の音、風を感じられ るように外遊びを推奨している。室 内でも、窓を開けて風が通り抜ける ようにしている。雨の日には雨どい の下に金バケツを置き、水がたまる音 や跳ねる音を楽しんでいる。	暑い日も寒い日も、多くの子どもが 思いきり身体を動かして外で遊ぶよ うになった。雨の音に気づいた子ども は音を楽しみ、静かに聞いて親に知 らせるなど、自然を感じる心が育ま れた。

きょうだい連れでものびのびと (I-2-②③)

背景・課題	実践内容	実践結果
外でも室内でもきょうだいを同時に 見ることに大変さを感じている親が 多い。特に赤ちゃんを抱っこしたまま 上の子を追いかけている姿がみられ る。	一人ひとりの子どもがやりたい遊びが できるように、親と話をしてスタッフが 一人の子どもを見守り、もう一人の 子と親と一緒に遊べるようにしてい る。特に、ヨチヨチ歩くまでの子をスタ ッフが見ることが多い。外でもマットを 敷き、下の子も遊べるように見守っ ている。	スタッフが見守るだけでなくほかの親 とも「お互いさまの子育て」ができるよ うになった。「きょうだい連れで来ても 子どもがのびのびと遊ぶ、安心な場」 との声があった。



3. 安全対策・衛生管理をする

安全対策 ～遊びの観点から～ (I-3-④)

背景・課題	実践内容	実践結果
子どもは思いもよらない行動をすることがあり、安全のため禁止事項などを多く設けることがある。ルールや規制を設けすぎるあまり、子どもの遊びに制限がかかることがある。	子どものさまざまな遊びを想定し、かつ安全である居場所のために、マニュアルに沿って園庭、室内を点検している。土山で石を投げるなどの危険な遊びがあれば、スタッフは子どもに危険な理由を具体的に話し、別の遊びを提案し、安全に遊べるように対応している。	あらかじめ点検を行ったことで遊ぶには危ない場所を把握することができた。子どもは安心して自分のやりたい遊びをすることができた。

衛生管理～嘔吐時のスタッフ対応～ (I-3-⑥)



子どもの嘔吐は、突発的に起こります。それに対応するために必要な物品を常備するとともに、処理方法をマニュアル化して共有しています。また、実際に起こった時にすぐ対応できるように、当日のスタッフ3人の連携が大切です。それぞれの役割を確認し、何度もイメージを持って練習を行っています。

いざという時のために～防災訓練～ (I-3-⑦)



緊急時対応マニュアルを作成するだけでなく、いざという時にきちんと対応できることが必要です。地震や災害時、また身近な家族や利用者が目の前で倒れた時などに対して、自分事として訓練を積むことは大切です。

スタッフや地域の方も含めて、西消防署の方を講師に招き、起震車体験や初期消火訓練、心肺蘇生法、AEDの使用方法などの講習を受けました。どのように行動したらいいのか、みんなで学び、体験しそれぞれ気づきを得ました。

後日、近隣の AED の設置場所を探したり、定期的に救命救急講習を受けることの大切さを確認しました。今後は利用者とともに防災訓練も実施していきたいです。





Ⅱ.子ども・親子・親同士の交流の場

1. スタッフと利用者との関係づくりをする

⑧ 親しみやすい雰囲気の日頃から利用者に関わり、気兼ねなく話をする

・あいさつ ・笑顔 ・利用者のペースで会話する ・公平 ・対等

2. 利用者同士の関係づくりをする

⑨ 親同士、子ども同士の関わりを促す

・お互いを紹介し、つなぐ

⑩ 自分の親以外の大人、我が子以外の子どもとの関わりを促す

・場に応じた声かけ ・親と子どもの名札

1. スタッフと利用者との関係づくりをする

始まりは「よく来たね」のひと言から (Ⅱ-1-⑧)

背景・課題	実践内容	実践結果
親にとって、幼い子どもを連れて居場所に来ることは、大変だと思う人が多い。	顔を見るとき、「(暑い中/寒い中/強風の中...)よく来たね」と親に声をかけている。子どもにも手を振ってあいさつし、しゃがんで目線を合わせて話している。	スタッフからのねぎらいの言葉と子どもへの対応で、サロンに来られただけでもホッとひと息でき、達成感や安心感をもつことにつながった。

名前を呼んで親しみのある居場所に (Ⅱ-1-⑨)

背景・課題	実践内容	実践結果
日常の親子の遊び場では、親同士のつながりが持ちにくく、お互いの子どもの名前を呼ぶなど、親しみのある関係になりにくい。	年齢に応じて色分けした名札に、家で呼んでいる名前を記入してもらっている。どの親もスタッフも一人ひとりの名前を覚え、呼び合って遊んでいる。	名前を呼ぶことで親との信頼関係が築きやすく、子どもも笑顔になり、居場所への愛着が生まれた。また、色分けの名札は年齢がわかりやすく、利用者間の関係構築に役立った。

2. 利用者同士の関係づくりをする

親同士を結ぶきっかけは？ (Ⅱ-2-⑨⑩)

背景・課題	実践内容	実践結果
コロナ禍で、出会いや話をする機会が減っている中、親にとってきっかけがなければ関係づくりすることが難しい。	同じ年齢の子どもや同じ地域に住む利用者同士をつなぐ声かけを意識している。「この子どもこの子」のわらべうたを通して、初回利用者が多い日や年齢別の「おしゃべり会」でお互いの親子を紹介している。	子どもの年齢や居住地域が近いなどの共通の話題でつなげることにより、親同士が話をしている様子が見られた。わらべうたで和やかな雰囲気をつくることで話しやすくなった。名前を知ることが、お互いの子どもに声をかけて見守るきっかけにもなった。



Ⅲ.子ども(遊び)の支援

1. 子どもとの関わりを深める

⑪ 子ども一人ひとりをありのままに受容する

・傾聴 ・声かけと見守り

⑫ 地域の人と交流し、子どもの社会性を豊かに育むことに努める

・あいさつ ・交流

2. 子ども一人ひとりの発達や個性を理解する

⑬ 子どもの個性や発達を理解し、親とともに成長を見守る

・資料の掲示 ・発達のプロセスを話す ・遊びや遊具の配置の工夫 ・発達に応じた遊び

3. 子どもの主体性を尊重し自由な遊びを支援する(子どものエンパワメント)

⑭ 子どもの興味や関心に共感し、自ら遊びを選択できるように関わる

・子どもの主体性の尊重

1. 子どもとの関わりを深める

マイペースにおさんぽ遠足♪ (Ⅲ-1-⑪)

背景・課題	実践内容	実践結果
小さい子どもがいる親は、車や自転車、ベビーカーの利用が多いため、ゆっくりと外を歩いて自然に親しむ機会が少ない。	草花や田んぼの変化を感じられる近所の神社へのお散歩を定期的に企画している。出発前にナイロン袋でバッグを手作りして、草花を持ち帰ることができるようにしている。道中は子どものペースにあわせてスタッフが親子と一緒に散歩している。	ナイロン袋のバッグに、気に入った草花や虫を見つけては入れることができた。親子の会話が生まれ、自然に親しむ時間をつくることができた。子ども一人ひとりのペースに寄り添ったことで、安心して参加できた。

2. 子ども一人ひとりの発達や個性を理解する

子どもの発達を育てる遊び (Ⅲ-2-⑬)

背景・課題	実践内容	実践結果
親は子どもの発達について、インターネットの情報を頼りにすることが多く、理解を深めることが難しい。	0歳から1歳児は手・指先(つかむ、つまむ、引っ張る、落とすなど)を使った遊びをすることで成長が促される。発達に関する話をしながら、手作りおもちゃ(ぽとんおとし)を親子で作成し、遊びに取り入れている。おもちゃは持ち帰って家庭でも遊べるようにしている。	「ぽとんおとしのペットボトルのふたをしっかりとつかんで落とせるようになった」など、子どもの成長を親とともに喜び、実感できる機会になった。

想像力が広がるおもちゃ (Ⅲ-2-⑭)

背景・課題	実践内容	実践結果
親は電子音が鳴る、奇抜な色彩、プラスチック製、今流行りのおもちゃを選ぶことが多い。	刺激の強い音や色、冷たい感触のおもちゃは、五感を育むうえでさまざまなことになりやすい。単色で単純なカタチ・素材・手触りなど、温かみがあり、五感が育ち、創造力が引き立てられる、やりたい気持ちが続くようなおもちゃを用意している。	子ども自身がさまざまな工夫をして夢中で長時間遊ぶようになった。シンプルなデザイン、色合いも柔らかいものが多く、親も安心して子どもを見守ることができた。同じおもちゃで多様な遊び方をするため、親子のコミュニケーションが生まれやすくなった。

3. 子どもの主体性を尊重し、自由な遊びを支援する（子どものエンパワメント）

挑戦！土山！（Ⅲ-3-⑭）

背景・課題

子どもが挑戦したくても、少し難しい遊びだから「できない」「危険だ」とさえぎろうとする親が多い。



実践内容

子どもは自分の力、自分の身体で挑戦する心をもって遊んでいる。親にも子どもが挑戦している遊びを手助けする方法を伝えている。



実践結果

居場所にある土山では、挑戦する子どもとそれを応援する親の姿がみられるようになった。笑顔の子どもを見て親子で満足感を味わうことができた。



みんなと同じじゃないとダメ？（Ⅲ-3-⑭）

背景・課題

ほかの子どもたちと同じことをしていないと将来子どもが困るのではないかと不安になる親は、「みんな〇〇しているよ」と声をかけて同じことをさせようとする人が多い。

実践内容

「3歳までは自分がいちばん。今は〇〇したいだね」と話しかけて、無理にほかの子どもたちと同じことをさせようとせず、ありのままを受け止める雰囲気をつくっている。

実践結果

子どもの様子を見て「〇〇したいんだね」と話すスタッフに親も安心して、子どもへの接し方や見守り方が変化した。

どろんこ遊び（Ⅲ-3-⑭）

雨上がりの水たまりやスプリンクラーでできた水たまりに裸足で入って遊びました。子どもはソロソロりと近づき、泥が足に付くとバシャバシャバシャ。今度はしゃがんで両手でバシャバシャ、グチュグチュ、かき混ぜます。すぐにしゃがんでおしりにも泥が付きます。

お母さんは子どもに「ドロドロ、どんな感じ？」と笑顔で声をかけています。スタッフが、お母さんに「こんなこと見守れる？」と聞くと「いやあ、ほんと洗濯が大変なんですけど、みんなでやって子どもが嬉しそうにやってるからおもしろいです」と言われました。子どものやりたいことを見守れる大人がいると、子どもはのびのびと遊べますね。





IV.親(子育て)の支援

1. 親との関わりを深める

⑮ 親一人ひとりをありのままに受容する

・傾聴 ・寄り添い ・共感

⑯ 支援者に手助けを求められるよう日常的に親子と関わることを大切にする

・声かけ ・見守り ・日常会話を大切にする

2. 一人ひとりの子育てを理解する

⑰ 日常的な会話等から家庭での子育てや生活習慣の理解に努める

・子育て方針の理解

3. 親の主体性を尊重し、子育てを支援する(親のエンパワメント)

⑱ 親の主体性を尊重した子育て支援を行う

・親の強みや良さの発揮

⑲ スタッフ自身が自己覚知に努める

・押しつけない ・客観視 ・チームで支援

4. 子育てに関する情報を提供する

⑳ 子どもとの遊び方(メディア含む)、しつけの方法、気がかりなこと等への対応について情報提供する

・学べる機会や環境づくり(掲示など含む) ・情報交換の場づくり

5. 子育て講座等を開催する

㉑ 子どもとの遊び方(メディア含む)、しつけの方法、気がかりなこと等への対応に関する子育て講座を開催する

・子育て講座 ・参加者以外への情報提供(掲示や広報物など)

1. 親との関わりを深める

親の気持ちに寄り添う (IV-1-⑮⑯)

背景・課題	実践内容	実践結果
親は子どもの将来を心配している。コロナ禍も相まってインターネットなどからの子育て情報で解決策を考えるため、電話や対面での相談は少ない。	子どもの様子をよくみて「○○もできるようになったね」と成長をともに喜ぶ。話を聞くときは「そうなんだね」と共感すること、無理に聞き出さないことなど、親一人ひとりの気持ちに寄り添って話をするように心がけている。	子どもの成長を素直に喜び、共感することで親が話しやすくなった。困りごとの相談や家庭のことなどを話して、心配が解消することにつながった。

緊急事態宣言下の取組 (IV-1-⑰)

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の期間、岡山市の方針に沿ってサロンを休業することになりました。

利用者の近況を把握して「サロンに行けない、外遊びができない」などの困り感を受け止めて対処するために、登録世帯に往復はがき（宛名はスタッフ直筆）を送付しました。はがきには、「困りごとがあれば電話や対面で話しましょう」「お家でできる遊びをSNSに掲載しています」という内容を書き添えました。33通の返信はがきには、家での様子が記されていたほか、県外に引っ越した方からサロンが楽しかったことなどが綴られていました。

ほかにも、家でできる遊びについて動画を作成し、SNSに掲載しました。



2. 一人ひとりの子育てを理解する

立ち話は情報の宝庫 (IV-2-⑰)

背景・課題	実践内容	実践結果
親は居場所を利用していても、子育てに自信がなく遠巻きにほかの親の振る舞いを見ていることもある。子育てについて話をして不安を解消することが少ない。	親は子どもの遊びを見ながら、スタッフに季節の話や家族の話、子育ての話、子どもの食事や睡眠、生活リズムなどの話をしている。	スタッフとのなにげない日常会話から、親が今困っていることや考えていることがわかってきた。必要に応じてスタッフ間で内容を共有し、日常会話の中でのアドバイスや親の子育ての様子を見守ることにつながった。

3. 親の主体性を尊重し、子育てを支援する（親のエンパワメント）

親の得意なことを生かして居場所をつくる（IV-3-⑱）

背景・課題	実践内容	実践結果
居場所ではサービスを提供する側と提供される側になりがちで、一緒に場をつくるという雰囲気になっ ていない。	話の中で親の得意なことを聞き、折り紙やわらべうた、絵本の読み聞かせや手遊びなど、利用者の前で披露することにチャレンジしてもらっている。授乳コーナーの絵を描いたり、七夕飾りの制作、手遊びなど、親も楽しんでできることを活動の中に取り入れている。	親とスタッフとの信頼関係が培われると、居場所で得意なことを生かすことや準備・片付けを一緒にすることが増えてきた。親が安心して自信を持って居場所にいることで、子どももより、安心して楽しく遊べる場になった。

利用者からサロンスタッフへ（IV-3-⑱）



親子でサロンを利用していたAさんとスタッフがおしゃべりをしている時、来年度からのスタッフを募集していることを話すと、「私でよかったらやってみたいです」「ここで私たち親子がスタッフやみんなと過ごしたことを、ほかのお母さんにも伝えていきたいです」と言われました。

Aさんは、新年度からスタッフとして関わることになり、サロン後の振り返りの中で、「来た人みんなに声かけをすることを心がけています。自分から話すのは苦手だったけれども、今日もみんなに声かけをすることができました」と語っていました。

また、親支援に関する研修に参加した時には、「これまでは、子どもへの支援のことばかり考えていました。自分がサロンを利用していた時、スタッフに私自身がずいぶん支えられていたことを思い出しました。これからは親支援も大事にしていきたいです」と話されました。

4. 子育てに関する情報を提供する

おしゃべり会 (IV-4-⑳)

背景・課題	実践内容	実践結果
親はインターネットや本から子育てなどの情報を得ることが多い。親同士で話す機会が減っている。	子どもの年齢別やテーマごとに「おしゃべり会」を不定期に開催している。事前にほかの親に聞いてみたいことや知りたいことについて聞いている。	トイレトレーニングやイヤイヤ期の過ごし方、きょうだいげんかの見守り方や考え方、予防接種、コロナ禍での遊びなど、利用者同士が教え合う場となった。その後、親同士が立ち話で悩みごとを話し、情報交換する関係が生まれた。

利用者とともに緊急対応を実践 (IV-4-㉑)

『救急車の呼び方』を掲示していると、利用者が興味深そうに見ていたので「一緒にやってみる？」と声をかけました。救急車を呼ぶ人、消防署の人に分かれて資料を見ながらその場にいた6人でシミュレーションをしてみました。

すると「ここが、どこで何番地か、電話番号もわからないよね」「もしもの時は、パニックになっているな」「この場所の近くに何があるかを消防署に言ったらいいのかな」など利用者同士でさまざまな気づきがありました。掲示をするだけでなく、利用者と一緒に緊急対応を実践することが大切だと感じました。



5. 子育て講座等を開催する

ニーズを踏まえた子育て講座をみんなに (IV-5-㉒)

背景・課題	実践内容	実践結果
自分の子どもの発達(排泄、食事、睡眠、認知能力や言語、運動など)について、同世代の子どもと比べて不安を抱く親が多い。	年 10 回の子育て講座のテーマは、日常会話で出てくる困りごとや要望などを踏まえて決定している。また、講座に参加できなかった親のために講座の概要を掲示している。	親のニーズに沿った講座を開催できた。講座概要の掲示を見ている親と話すきっかけにもなり、親の困りごとを引き出すことにもつながった。



V. 子育て相談 (配慮を必要とする子育て 家庭の支援を含む)

1. 相談環境を整備する

㉓ 相談コーナーを整備する

- ・柔軟な対応ができる環境整備

2. 子育て相談(ソーシャルワーク)を行う

㉔ 親の悩みや感情を理解・受容し、共感的な態度で問題の軽減や解決方法を共に考え、最終的に本人の自己決定を尊重する

- ・寛容さ ・気軽さ ・多様性 ・親の問題のとらえ方を把握する

㉕ 専門機関との連携体制を築く

- ・連絡網 ・日頃からの関係づくり

㉖ 相談内容を記録、共有する

- ・日誌の記録で共有 ・支援記録の作成 ・ケース会議

1. 相談環境を整備する

相談場所は柔軟に（V-1-②）

背景・課題	実践内容	実践結果
親は子育てに対する漠然とした不安や気になることを身近な人や親同士で話す機会が少ない。また、広報誌に掲載されている相談機関や電話相談は、気軽に利用しづらいと感じている人が多い。	相談室などの場所の整備よりも、話しやすい関係づくりと場づくりを心がけている。相談者と立ち話を続けたり、別室に移動するなど、柔軟に相談に応じている。また、気になる親には別の話題でスタッフから電話をして近況を聞くこともしている。	ソフト面の環境整備に取り組むことで、「相談」と構えずに、日常会話の中で心配ごとなどの本音が出てくることがあった。その内容は、利用者カードに継続して記録した。

2. 子育て相談(ソーシャルワーク)を行う

相談は「傾聴・共感・対話力」が第一（V-2-③）

背景・課題	実践内容	実践結果
育児に関して相談できる人が少なく、不安や孤独を抱え込む親が多い。	相談者は答えを求めて話しているわけではないことも多く、まずは傾聴を大切にしている。共感やリフレーミング※などを心がけている。内容が深刻な場合は専門機関を紹介しているが、利用するか否かの判断は利用者自身にゆだねている。 ※リフレーミング ものの見方や捉え方を変えること	話ができただけでモヤモヤした気持ちを整理できたのか、ホッとした様子が見受けられた。



VI. 地域支援

1. 地域の人と交流する機会をつくる

②⑥ 多世代のボランティアが活躍できる機会をつくり、地域交流を図る

- ・多世代
- ・ボランティア
- ・地域行事への参加

2. 地域へのアウトリーチを行う

②⑦ 親子が集まる場に積極的に出向き、拠点の利用を促す

- ・子育てサークル
- ・乳幼児健診
- ・出張ひろば

3. 地域の子育て支援者とのネットワークづくりを行う

②⑧ 地域の子育て支援者の名簿等を作成し、連携を図る

- ・連絡網
- ・日頃からの関係(ネットワーク)づくり

1. 地域の人と交流する機会をつくる

地域で暮らす、地域で子育て (VI-1-⑳)

背景・課題	実践内容	実践結果
サロンの開催場所では、子育て世代が地域住民と交流する場「土曜塾」が開催されており、町内に住むサロン利用者も多く参加する。また、地域の方が草花への水やりや樹木の管理、畑作業などにも来られるので、親子と顔を合わせる機会がある。	スタッフが率先して地域の方とあいさつして良い雰囲気をつくるように心がけている。親には、無理に「あいさつしなさい」と子どもをしつけるのではなく、気持ちを込めてあいさつすることが大切と伝えている。地域の行事の情報を掲示し参加を勧めている。	地域の方と大人があいさつをすることで交流ができ、「あいさつ」ができる子どもが増えてきた。サロン利用者が地域の行事に参加するようになった。普段から地域の方とあいさつをする関係が育まれた。

鯉のぼりを一緒にあげたね！ (VI-1-㉑)

集合住宅で暮らす人が増えて、大きな鯉のぼりを見かけることが減ってきました。みんな和やかサロンでは、「屋根より高く、大きく、力強く泳ぐ鯉のぼりをサロンに来る子どもたちに見せたい！」と地域の方から寄付していただいた鯉のぼりを、地域の方・利用者親子・スタッフみんなであげました。風にそよぐ鯉のぼりに拍手喝采。地域の方へのお礼も込めて「鯉のぼりの歌」を歌いました。

毎日空を見上げて、「一緒にあげたね」「今日も泳いでいるね」と、親子で鯉のぼりを見ながら、季節を満喫しました。



2. 地域へのアウトリーチを行う

みんな和やかサロンにどうぞ (VI-2-㉒)

背景・課題	実践内容	実践結果
近隣の公民館では、親子ひろばや父親の子育て講座などの子育て支援、行政による子育て相談などが行われている。それらの場に訪問し、地域住民に居場所の存在や機能などをお知らせすることが求められる。	公民館でのおやこクラブなどの開催日にスタッフが訪問し、手遊びや読み聞かせなどを行ってサロンの紹介、利用を促している。訪問にあたっては了解を得るために丁寧な説明を心がけている。	おやこクラブなどでサロンのスタッフに出会い、サロンの雰囲気を感じられたことで参加につながった利用者があった。

出張ひろば (VI-2-㉗)

桑田中学校区の大元中央公園(雨天の場合は大元公民館)にて、「出張ひろば～親子で楽しく集いましょう～」を毎月1回開催しました。

ダンボール遊び、どんぐりコロコロ、ままごと遊びやフープ遊びなどを行いました。また、0歳児も遊べるように、桜の木の下にマットを敷き、読み聞かせや手遊びなどを行いました。

「ダンボールでこんなにうれしそうに集中して遊ぶのは初めて見ました」「どんぐりコロコロ、喜ぶますね。おもしろいんですね。ずっとやってます」「フープひとつで、いろいろできるなんて楽しいですね」転がす、くぐるなどの遊び方に気づいたり、子どもの真剣な顔が見られたり、改めて外遊びを満喫したようでした。

この地域で活動しているおやこクラブとつながり、大勢の参加がありました。「毎週しているんですか?」「今度はいつですか?」と聞かれ、出張ひろばへの期待を感じました。後日、サロンへ参加する親子も何人かいました。



3. 地域の子育て支援者とのネットワークづくりを行う

地域の子育て支援者と連携して (VI-3-㉘)

背景・課題	実践内容	実践結果
<p>近隣には民間の子育て支援の場がたくさんある。「子どもの遊び」「子どもの発達」に特化した支援者がいる。親子に合った支援を充実させるためには、ネットワークづくりが必要である。</p>	<p>地域の子育て支援の名称・支援内容・連絡先などの名簿を作成している。支援者間で随時情報共有をして様子を把握し、必要に応じて紹介しあっている。</p>	<p>助産院で紹介されて居場所の利用につながったケースがあった。また、発達に特性をもつ子どもの支援を行う団体を紹介して、つないだケースもあった。</p>



Ⅶ.運営

1. 活動および運営に関する業務を円滑に行う

- ②9 活動理念と目的・目標が明文化され、それに基づく年間スケジュールを作成、共通理解する
 - ・活動方針の確認
- ③0 運営全般の会議を行う
 - ・運営ミーティング
- ③1 活動結果をスタッフ間で共有し、振り返り・充実・改善を行う
 - ・目標 ・振り返り ・スタッフミーティング ・PDCAサイクル
- ③2 利用状況や活動内容を記録する
 - ・日誌 ・参加者名簿
- ③3 業務の実施状況や施設の管理状況等を記録する
 - ・シフト ・業務の流れ ・室内外の配置図 ・物品管理
- ③4 自己評価、利用者評価、第三者評価、利用者や地域の子育て支援者との話し合い等に基づき、運営の改善に取り組む
 - ・評価と振り返り ・運営改善の仕組み
- ③5 広報活動を通じて、活動内容等を地域に発信する
 - ・おたより発行 ・町内回覧 ・ホームページや SNS

2. スタッフのスキル向上を図る

- ③6 スタッフ間のチームワーク向上に努める
 - ・日々の活動の確認および振り返り
- ③7 研修・勉強会・アドバイザーの助言等により、スタッフの資質・専門性の向上に努める
 - ・研修会の活用 ・スタッフミーティングでの勉強会実施

3. 守秘義務を守る

- ③8 利用者の個人情報保護、相談環境や記録の管理等に十分配慮し、義務遂行以外に用いない
 - ・個人情報保護規定 ・鍵のついた保管庫
- ③9 広報誌や HP 等での情報の扱いに十分配慮する
 - ・写真許可
- ④0 ボランティア等にも守秘義務への共通理解を図る
 - ・プライバシーへの配慮

1. 活動および運営に関する業務を円滑に行う

目標の PDCA サイクル (VII-1-⑳㉑㉒)

背景・課題	実践内容	実践結果
居場所の目標などが明文化されておらず運営のポイントがあいまいであると、「親子の居場所」の質の担保が難しい。	運営ミーティングで理念と目的を明文化して年間目標を設定し、スタッフミーティングで詳しい月目標をたてている。月目標をもとに、日々の活動前に目標をスタッフ間で共有、終了後は振り返りを行うとともに日誌に活動の様子を記録している。	年間目標から毎日の目標まで、計画と実行、振り返りのプロセスを丁寧に行うことで、居場所の理念や目的を関係者間で共通認識し、そのうえで利用者への支援のあり方を検討するなど、充実した運営につながった。

多様な方法で周知を (VII-1-㉓)

背景・課題	実践内容	実践結果
子育てへの不安や孤立感が増しているが、「親子が気軽に集い、親同士での相互交流、子ども同士が異年齢の中で遊べる」親子の居場所が少なく、周知も行き届いていない。	活動内容や日常の様子、子育て講座の概要などを掲載した「みんな和やかサロンだより」を毎月発行し、町内で回覧をお願いしたほか、近隣の公民館やこども園、郵便局などに配布、掲示を依頼している。また、ホームページや SNS に情報を掲載している。	「回覧しているサロンだよりで存在を知った」「公民館の掲示を見て来た」という声があった。ホームページや SNS を見て利用した親子もいた。一方で、利用者からの口コミで利用につながった親子も多いた。

2. スタッフのスキル向上を図る

スタッフのスキル向上 (VII-2-㉔㉕)

背景・課題	実践内容	実践結果
スタッフは今までの経験を生かして、親のサポートをしてしまうことが多い。「居場所」や「子育て支援」などを行ううえで、基本となる知識や技術を学び合う場が必要である。	活動前後の目標確認や振り返り、気になる親子の事例を出し合うスタッフミーティングなどで、各スタッフの対応の様子を聞き学びあっている。また、他施設の視察や研修を行い、より良い運営につなげている。	ほかのスタッフの対応を聞くことが自身の対応を振り返る機会となり、気づきやスキル向上につながった。アドバイザーの助言や研修により、親子への対応や関わりが充実した。

第3章 調査結果・評価

本事業はPDCAサイクルに基づいて実践しました。ここではPDCAサイクルのC(Check)にあたる、「みんな和やかサロン」の取組の評価(効果)を明らかにするために行った4つの調査(表3)について報告します。

表3 4つの調査

No.	調査	対象者	調査方法	分析方法
1	令和2年度と3年度の事業評価	支援者	量的調査	両年度の事業評価に関する項目の順位に、統計的に意味のある差(有意差)があるかどうか検討する
2	令和2年度と3年度の支援に関するグループ・インタビュー調査	支援者	質的調査	各年度の調査結果の内容分析から、どのような変化があったか検討する
3	子育て不安や居場所ニーズ・評価に関するプレ(事前)調査とポスト(事後)調査	利用者	量的調査	初回から数回目の利用時に実施したプレ調査と、6か月後に実施したポスト調査の項目の順位に、統計的な意味のある差(有意差)があるかどうか検討する
4	令和2年度と3年度のサロンの利用に関するグループ・インタビュー調査	利用者	質的調査	利用者の調査結果の内容分析から、どのような変化があったか検討する

- ◇ 量的調査において有意差の検討を行うために、少数の対象者の分析が可能なIBM SPSS version27 Exact Testの統計ソフトを用いて正確な有意確率を算出しました。令和2年度と3年度の事業評価を比較した時や、プレ調査とポスト調査結果を比較した時に、有意確率が0.05未満(*)の場合は、統計的に意味のある差(有意差)があると考えます。有意確率が0.05以上で0.1未満(+)の場合は、有意差の傾向があると考えます。
- ◇ 質的調査で行った内容分析では、自由記述や録音したデータの逐語録(テキスト)を、意味のある内容の分析単位に区切り、その内容を吟味し、名称を付けコードとしました。さらに、類似したコードをまとめ、カテゴリ、中カテゴリ、大カテゴリとして分類し、名称を付けました。これらのカテゴリを使って、内容の図式化や文章化(ストーリーラインの作成)を行いました。内容分析の文中の、【○○】は大カテゴリ、○○(二重線)は中カテゴリ、○○(波線)はカテゴリ、○○(単線)はコード、「○○」は元のデータを表しています。(P32～33、P35～37)

1. 令和2年度と3年度の事業評価

【目的】令和2年度と3年度の事業評価を比較する

【対象者】岡山市子どもセンター7人、アドバイザー1人、岡山市地域子育て支援課1人、ESD・市民協働推進センター1人

【時期】1回目：令和3年3月 / 2回目：令和4年1月

【内容】具体的目標40項目の達成度について4段階評価
年間目標の7項目についての振り返り(自由記述)

◎令和2年度と3年度の事業評価の比較(表3-1-1、参考資料：表3-1-1 P56)

- 令和2年度と3年度の具体的目標の達成度については、いずれも比較的高い評価となりました。
- 令和2年度については、緊急時の備え・相談対応の体制・地域との関わりに関して、順位が低い項目もあったため、次年度に取り組む必要があることがわかりました。

- 両年度を比べると、40 の具体的目標のうち、有意差の傾向があった項目が1つ、有意差が確認できた項目が3つありました。「⑦防災・防犯対策を整える」については、令和2年度に比べ、令和3年度の方が高く評価する傾向がありました。「⑩日常的な会話等から家庭での子育てや生活習慣の理解に努める」、「⑭専門機関との連携体制を築く」、「⑯親子が集まる場に積極的に出向き、拠点の利用を促す」の3項目については、令和2年度に比べ、令和3年度の方が明らかに評価が高くなっていました。
- 上記の4項目以外の項目については、両年度を比べると、令和3年度の順位が高くなっており、評価が高くなったように見受けられますが、両年度の間に有意差は認められなかったため、評価の変化はなかったといえます。

表3-1-1 令和2年度と3年度の事業評価

具体的目標 R3	中央値 R2	中央値 R3	具体的目標 R3	中央値 R2	中央値 R3
I-1-①設備(コーナー)・備品(外遊び・室内遊びのおもちゃ等)を整備する	2	2	IV-5-②子どもとの遊び方(メディア含む)、しつけの方法、気がかりなこと等への対応に関する子育て講座を開催する	2	1
I-2-②居心地のよい場をつくる	1	1	V-1-②相談コーナーを整備する	3	3
I-2-③安心感のある場をつくる	1	1	V-2-②親の悩みや感情を理解・受容し、共感的な態度で問題の軽減や解決方法を共に考え、最終的に本人の自己決定を尊重する	2	2
I-3-④施設・遊具の安全点検・安全管理を行う	2	2	V-2-④専門機関との連携体制を築く *	3	2
I-3-⑤事故やケガの緊急時対応を行うための体制を整える	3	2	V-2-⑥相談内容を記録、共有する	2	2
I-3-⑥感染症や中毒への対応を整える	2	2	VI-1-⑥多世代のボランティアが活躍できる機会をつくり、地域交流を図る	3	3
I-3-⑦防災・防犯対策を整える †	3	2	VI-2-②親子が集まる場に積極的に出向き、拠点の利用を促す *	3	2
II-1-⑧親しみやすい雰囲気や日頃から利用者に関わり、気兼ねなく話をする	1	1	VI-3-②地域の子育て支援者の名簿等を作成し、連携を図る	4	2
II-2-⑨親同士、子ども同士の関わりを促す	2	1	VII-1-②活動理念と目的・目標が明文化され、それに基づく年間スケジュールを作成、共通理解する	2	1
II-2-⑩自分の親以外の大人、我が子以外の子どもとの関わりを促す	2	2	VII-1-③運営全般の会議を行う	2	1
III-1-⑪子ども一人ひとりをありのままに受容する	1	1	VII-1-④活動結果をスタッフ間で共有し、振り返り・充実・改善を行う	1	1
III-1-⑫地域の人と交流し、子どもの社会性を豊かに育むことに努める	2	3	VII-1-⑤利用状況や活動内容を記録する	1	1
III-2-⑬子どもの個性や発達を理解し、親とともに成長を見守る	2	1	VII-1-⑥業務の実施状況や施設の管理状況等を記録する	2	1
III-3-⑭子どもの興味や関心に共感し、自ら遊びを選択できるように関わる	2	1	VII-1-⑦自己評価、利用者評価、第三者評価、利用者や地域の子育て支援者との話し合い等に基づき、運営の改善に取り組む	2	2
IV-1-⑮親一人ひとりをありのままに受容する	2	1	VII-1-⑧広報活動を通じて、活動内容等を地域に発信する	2	1
IV-1-⑯支援者に手助けを求められるよう日常的に親子と関わることを大切にす	2	1	VII-2-⑥スタッフ間のチームワーク向上に努める	2	1
IV-2-⑰日常的な会話等から家庭での子育てや生活習慣の理解に努める *	2	1	VII-2-⑦研修・勉強会・アドバイザーの助言等によりスタッフの資質・専門性の向上に努める	2	1
IV-3-⑰親の主体性を尊重した子育て支援を行う	2	2	VII-3-⑧利用者の個人情報保護、相談環境や記録の管理等に十分配慮し、義務遂行以外に用いない	1	1
IV-3-⑱スタッフ自身が自己覚知に努める	2	2	VII-3-⑨広報誌やHP等での情報の扱いに十分配慮する	1	1
IV-4-⑲子どもとの遊び方(メディア含む)、しつけの方法、気がかりなこと等への対応について情報提供する	2	2	VII-3-⑩ボランティア等にも守秘義務への共通理解を図る	2	2

† (クリーム色) : 有意差の傾向があった項目 * (黄色) : 有意差を確認できた項目
 4段階評価 : 1. とてもそう思う / 2. だいたいそう思う / 3. あまりそう思わない / 4. 全くそう思わない

表 3 - 1 - 2 令和 2 年度と 3 年度の年間目標 7 項目の今後の課題

項目	今後の課題（令和 2 年度）	今後の課題（令和 3 年度）
I.居場所（環境）整備	赤ちゃんコーナーの設置/発達段階別のおもちゃや遊具の提示/備品簿作成/季節感ある壁面装飾/掃除マニュアル作成/施設・遊具の点検簿/事故など緊急時の訓練/防災・防犯対策	木のおもちゃの整備を希望/赤ちゃんコーナーの設備の充実/子どもの危険防止のため門を閉める/マニュアルに基づく訓練の実施/老朽化したすべり台の使用禁止の徹底
II.子ども・親子・親同士の交流の場	親の見た目などから自身の価値観による話しかけ方に違いがないように気をつける/親同士、子ども同士、自分の親以外の大人、わが子以外の子どもとの関係構築/支援者が仲介し、親同士が知り合いになるような支援/昼食はスタッフがともにすることで食事や睡眠などの情報交換や相談が発生するため、コロナが落ち着いたら再開する	子どもに話しかけることが少ない親への声かけ/スタッフが話しかけて信頼関係を深める/スタッフが身近な日常生活や子どもの様子について話しかける
III.子ども(遊び)の支援	子どもの発達についてさらに勉強/子どもの興味を伸ばし、新たな発見を引き起こす働きかけについてスキルを身に付ける/令和3年度の研修内容に盛り込む	一人ひとりの子どもの発達や特性を理解して関わることは大変だが、スタッフ間でしっかり共有して個別対応と集団遊びを展開する/子どもの気持ちを受け止める遊びを考える
IV.親(子育て)の支援	頻りに利用していない利用者との関係を深める方法/親自身の良さや強みなどに気づけるような働きかけ/常連の利用者だけで固まらず、新しい利用者が入りやすい雰囲気大切に	利用者の親同士の集まりができた際、必要に応じて活動をサポートする/日常的な会話から家庭での子育てや生活習慣の理解に努めるのは難しいのでスタッフ間の情報共有が大切/親の強みや良さを引き出すための観察眼が必要/対応方法などを押しつけないようにする/提供する情報を帰宅後にじっくり読み込むことは難しいと思われるため、サロンで読み込む時間や場所をつくる/初回利用者歓迎デーをつくる/0歳児の親子の集まりを定期的実施
V.子育て相談（配慮を必要とする子育て家庭の支援を含む）	相談コーナーを設置するための場所の確保/専門的な相談を受けた際の応じ方やほかの専門機関へのつなぎ方についての研修などによるスキル向上/ケース会議の仕組み化に向けて話し合いが必要	相談コーナーの場所の確保/専門機関との連携体制の充実/親が問題と感じていない事柄への対応/アセスメントシートやプランニングシートなどを用いたソーシャルワークのスキルも取り入れる
VI.地域支援	コロナの影響もあり機会が不十分/お散歩遠足にリーフレットを持参して、遊んでいた親子に渡す/ネットワークづくりに十分に取組んでいく必要がある(名簿作成による見える化など)	ボランティア受入体制の構築/地域へのアウトリーチの体制の確立/子育て支援者名簿の活用/他機関との情報交換の機会の設定/夏休みなど地元の小・中学生を受け入れる
VII.運営	具体的目標を改めて読み共通理解を図る/より効果的な目標や振り返り/必要な情報が過不足なく伝わるような仕組みの整備/安全点検や清掃・備品などの整備/地域の子育て支援者、協力者との関係づくり/金庫の施錠、日誌や利用者カードの管理に注意/初回利用時の説明/年間目標を再整理するとともに、サロンスタッフ・協働事業メンバーとも共通理解を図る/切磋琢磨の1年目から、型を定着させる2年目の運営を目指して各自が意識する	利用者、第三者、地域の子育て支援者からの評価体制の確立/スタッフのシフト管理や情報共有方法などの円滑化/当事者である親やさまざまな立場の人の意見を取り入れるために、運営委員会のような仕組みを設ける

◎年間目標 7 項目に関する今後の課題（表 3 - 1 - 2）

表 3 - 1 - 2 は、令和 2 年度と 3 年度の事業評価の「年間目標 7 項目についての振り返り(自由記述)」をまとめたものです。特に令和 3 年度を中心に今後の課題をみると、以下のようなことがあげられます。

➤ 居場所(環境)整備

引き続き赤ちゃんコーナーの設備の充実を図ること、マニュアルに基づく訓練の実施。

➤ 子ども・親子・親同士の交流の場

子どもに話しかけることが少ない親への声かけ、親子への信頼関係づくり。

➤ 子ども(遊び)の支援

子どもの発達を踏まえた個別対応と集団遊び、子どもの気持ちを受け止めた遊びの展開。

➤ 親(子育て)の支援

スタッフ間の情報共有、親の強みや良さを引き出すための観察眼、対応方法などを押しつけないこと、初回利用者歓迎デーや 0 歳児の親子の定期的な集まりの実施。

- **子育て相談(配慮を必要とする子育て家庭の支援を含む)**
引き続き相談コーナーの場所の確保、専門機関との連携体制の充実、アセスメントシートやプランニングシートなどを用いたソーシャルワークのスキルを取り入れること。
- **地域支援**
ボランティア受入体制の構築、地域へのアウトリーチの体制の確立、情報交換の機会の設定、夏休みなどに地元の小・中学生を受け入れること。
- **運営**
利用者・第三者・地域の子育て支援者からの評価体制の確立、スタッフのシフト管理や情報共有方法などの円滑化、当事者である親やさまざまな立場の人の意見を取り入れるための運営委員会のような仕組みの設置。

2. 令和2年度と3年度の支援に関するグループ・インタビュー調査

【目的】令和2年度と3年度の支援に関するグループ・インタビュー調査を実施し、その調査結果の内容分析から、支援の変化を検討する

【対象者】サロンスタッフ（1回目：6人 / 2回目：4人）

【時期】1回目：令和2年12月21日 / 2回目：令和3年10月18日

【内容】遊び環境の整備で工夫したこと / 子どもの遊びや子育て講座で工夫したこと / 子どもや親との関わり方で変化したこと / 子ども、親、親子関係で変化したこと / 今後の活動で特に大切にしたいこと

◎1年目・2年目の比較からみたスタッフの支援の変化

(図3-2-1、図3-2-2、参考資料：表3-2-1 P57、表3-2-2 P58～59)

図3-2-2のスタッフのグループ・インタビュー調査結果の内容分析を中心にみていきます。

以下の内容分析の文中の、○○(二重線)は中カテゴリ、○○(波線)はカテゴリを表しています。

- **居場所の整備**
遊び環境の整備・遊具の整理・管理・遊びを充実させる環境整備として、部屋の確保、絵本の整理・管理をするとともに外遊びを充実させる環境整備に取り組みました。
- **支援評価**
親子への支援に加え、双子を育てる親への配慮など、配慮を必要とする親子への支援やさまざまな子育て講座に取り組んだことを評価していました。
- **変化に関する評価**
子どもの変化については、子どもの共通の遊び体験が深まったこと、親の変化については、子どもたちを取り巻く親たちの輪が形成されたこと、さらに、スタッフの変化については、スタッフの振り返りの大切さがわかったことなどを評価していました。

➤ **大事にしたいこと**

利用者同士が子育てを助け合うお互いさまの子育てを伝えることや利用者とスタッフの対等な信頼関係など対等な関係性や、親子への伴走的支援・多様性の尊重と親子に対する広い視野を持つこと・出張ひろばなど地域への広がりのある子育て支援、そして外遊びの重視などを大事にしたいこととしていました。2年間の取組を通して、親子の居場所の理念についての理解が深まりました。



図 3-2-1 スタッフのグループ・インタビュー調査結果の内容分析（1年目）

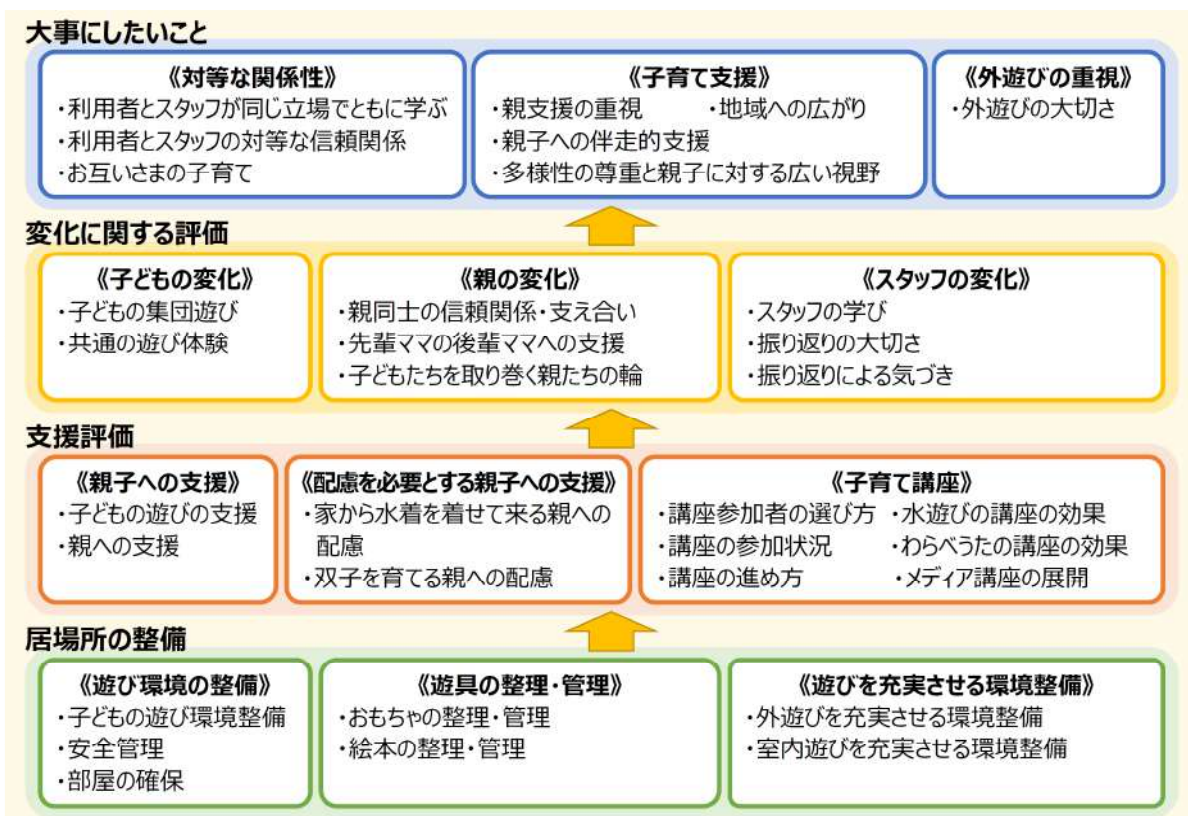


図 3-2-2 スタッフのグループ・インタビュー調査結果の内容分析（2年目）

3. 子育て不安や居場所ニーズ・評価に関するプレ(事前)調査とポスト(事後)調査

【目的】初回から数回目の利用時に実施したプレ(事前)調査と、6か月後に実施したポスト(事後)調査結果を比較し、各項目の順位に統計的に意味のある差(有意差)があるかどうか検討する

【対象者】プレ調査とポスト調査に回答した利用者：34人

【対象者属性】平均年齢：34.2歳

第1子のみと一緒に利用している人…23人 第2子のみと一緒に利用している人…3人

第1子と第2子と一緒に利用している人…8人

利用期間：1か月から3か月未満 32.4%、2年以上 26.5%

利用頻度：週1回 44.1%

【プレ調査の調査内容】

・属性：続柄 / サロンを利用している子どもの年齢・性別・順位 / 利用期間・頻度 / 回答者年齢 / 就労状況(選択式)

・内容：子育てを日常的に手伝う人の有無とその人との関係(選択式) / 子どもの気がかりなこと・心配ごと(選択式) / 子育てに対する不安感や孤立感(4段階) / 居場所のニーズ・評価(4段階) / ほかに利用している親子の居場所(自由記述) / 今、困っていることなど(自由記述)

【ポスト調査の調査内容】

・内容：子育てに対する不安感や孤立感(4段階) / 居場所のニーズ・評価(4段階) / サロンを利用していること(自由記述)

◎プレ・ポスト調査の比較からみた子育て不安と居場所ニーズ・評価の変化

(表3-3、図3-3、参考資料：表3-3-1 P60、表3-3-2 P60、表3-3-3 P61)

➤ 子育て不安のプレ・ポスト調査の比較

子育て不安については、すべての項目について有意差がなく、変化は認められませんでした。しかし、「孤独を感じる」については、プレとポストの調査結果の間には有意差の傾向がありました。プレとポストの調査結果の中央値は「3.ほとんどない」と同じ評価になっていますが、統計的には「孤独を感じる」ことが少なくなる傾向があることが明らかになりました。自由記述でも、サロンで「子育て仲間」ができ、サロンを「息抜き・ホッとできる場」と評価していました。これらのことから、サロンを利用することによって孤独感が軽減する傾向があることが示唆されました。

➤ 居場所ニーズ・評価のプレ・ポスト調査の比較

居場所ニーズ・評価については、「子育て講座」と「事故やケガ防止」の2項目以外に変化はありませんでした。「子育て講座」については、プレとポストの調査結果の間で有意差が確認されました。プレ調査では「2.だいたいそう思う」という評価でしたが、ポスト調査では「1.そう思う」と評価の順位が高くなっており、「子育て講座」の活動効果が明らかになりました。「事故やケガ防止」についても、プレとポストの調査結果の間で有意差が確認されました。プレ調査では「1.とてもそう思う」とニーズが高かったのに対して、ポスト調査では「2.だいたいそう思う」と評価が低くなっていました。自由記述においても老朽化した「すべり台の安全管理」を願っていることがわかりました。安全管理マニュアルを作成し、定期的な安全チェックを実施していますが、さらなる充実を図る必要があります。

表 3-3 プレ・ポスト調査の比較（子育て不安 / 居場所ニーズ・評価）

子育て不安	順位平均値		中央値		居場所ニーズ・評価	順位平均値		中央値	
	プレ	ポスト	プレ	ポスト		プレ	ポスト	プレ	ポスト
生活にゆとりがない	2.8	2.9	3.0	3.0	身体を動かす	1.1	1.2	1.0	1.0
子どもに対してイライラする	2.7	2.5	3.0	2.0	子どもが遊びやすい遊具・場所	1.1	1.2	1.0	1.0
子どもを上手く育てていない	2.7	2.6	3.0	3.0	事故やケガ防止	1.3	1.6	1.0	2.0
どうしたらよいかわからない	2.5	2.4	2.5	2.0	子どもの友だち	1.1	1.3	1.0	1.0
自分一人の子育てに圧迫感	3.0	2.9	3.0	3.0	子育て仲間	1.3	1.6	1.0	1.0
子育てでがまんばかりしている	2.8	2.8	3.0	3.0	スタッフとの話	1.2	1.1	1.0	1.0
孤独を感じる	2.9	3.2	3.0	3.0	子どもと一緒に遊ぶ	1.2	1.1	1.0	1.0
リラックスできる時間がない	2.9	3.0	3.0	3.0	子どもが家ではできない遊び	1.1	1.1	1.0	1.0
自分の楽しめることをしていない	3.2	3.1	3.0	3.0	子ども向けプログラム	1.4	1.5	1.0	1.0
					子育て講座	1.7	1.4	2.0	1.0
					子育て情報	1.4	1.4	1.0	1.0
					子育て相談	1.3	1.3	1.0	1.0

4段階評価：1.よくある 2.時々ある
3.ほとんどない 4.全くない
クリーム色の項目：プレ・ポストで有意差の傾向があった項目

4段階評価：1.とてもそう思う 2.だいたいそう思う
3.あまりそう思わない 4.全くそう思わない
黄色の項目：プレ・ポストで有意差を確認できた項目

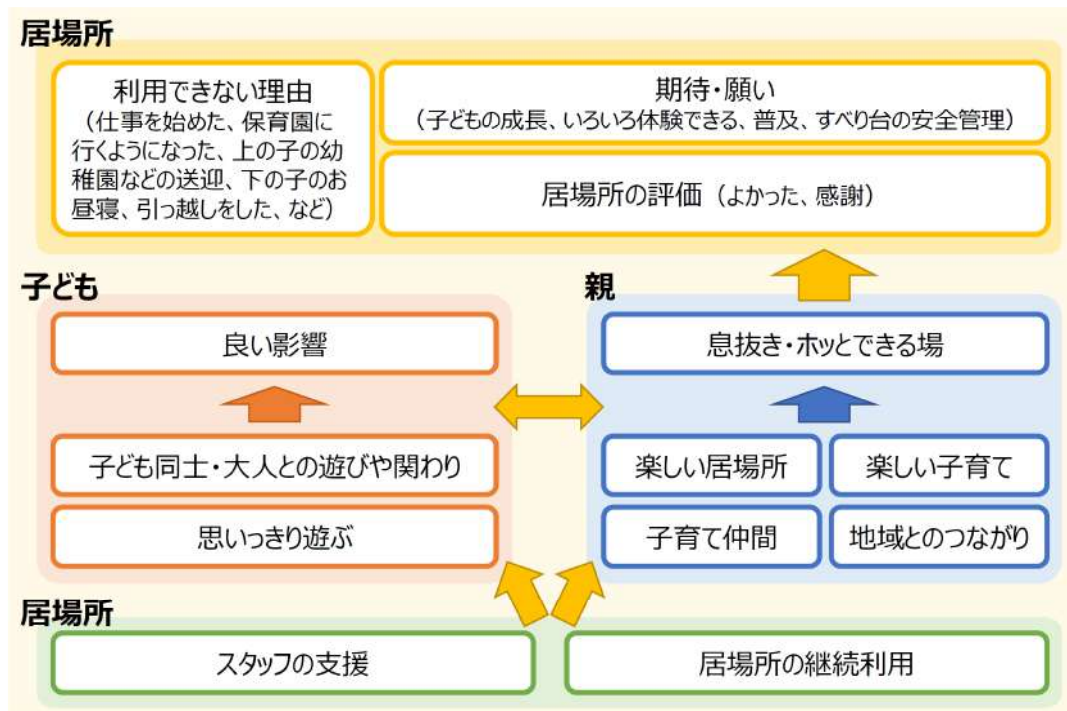


図 3-3 自由記述の内容分析

以下の内容分析の文中の、【○○】は大カテゴリ、○○(波線)はカテゴリを表しています。

居場所において利用者は、スタッフの支援を受け、居場所の継続利用をしています。【子ども】は、子ども同士・大人との遊びや関わりや、思いっきり遊ぶことによって良い影響を受けています。【親】は、楽しい居場所で楽しい子育てができ、子育て仲間や地域とのつながりもでき、親にとって居場所は息抜き・ホッとできる場になっていました。居場所を利用できない理由もありましたが、居場所を利用することによって、居場所への期待・願いが膨らみ、居場所を評価していました。

4. 令和2年度と3年度のサロンの利用に関するグループ・インタビュー調査

【目的】令和2年度と3年度にサロンを利用した利用者にグループ・インタビュー調査を実施し、その調査結果の内容分析から、利用者にとどのような変化があったか検討する

【対象者】サロン利用者：5人

【時期】令和3年7月16日

【内容】サロンを利用したきっかけ / サロンを利用してよかったこと / サロンの利用による親や子どもの変化 / サロンへの要望や希望など

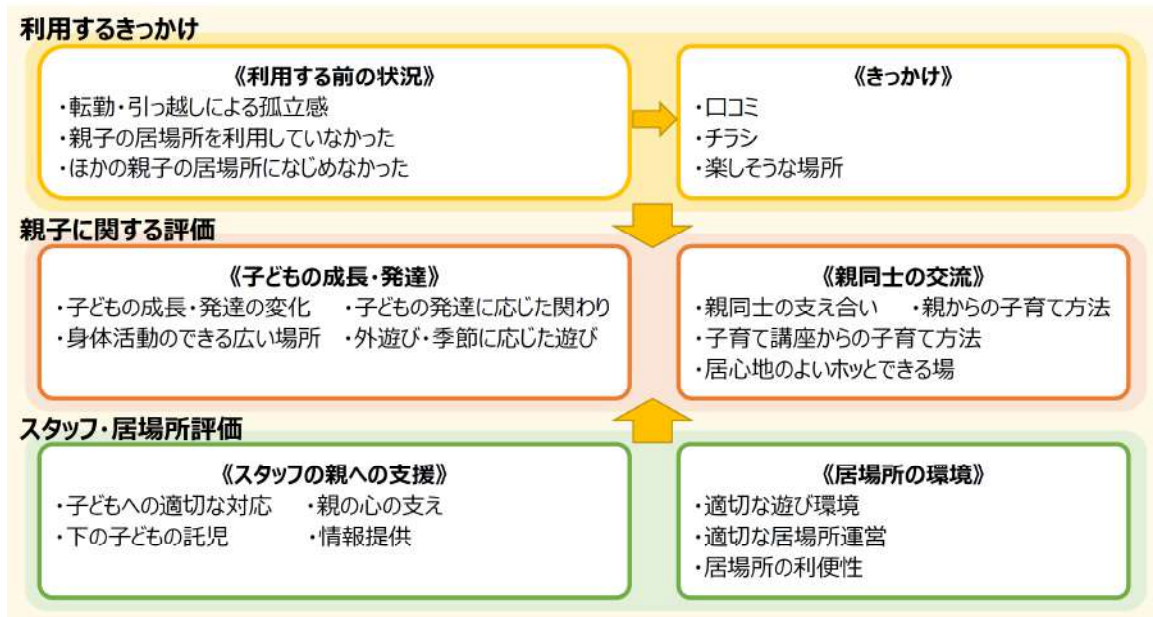


図3-4 利用者のグループ・インタビュー調査結果の内容分析

◎令和2年度と3年度にサロンを利用した利用者の評価 (図3-4、参考資料：表3-4 P62)

以下の内容分析の文中の、〇〇(二重線)は中カテゴリ、〇〇(波線)はカテゴリ、〇〇(単線)はコード、「〇〇」は元のデータを表しています。

➤ 利用するきっかけ

サロンを利用する前の状況をみると、利用者は転勤・引っ越しによる孤立感を抱いており、スマホなどで調べることはありましたが、親子の居場所を利用していませんでした。また、ほかの親子の居場所になじめませんでした。このような状況でサロンを利用するきっかけになったのは、ベビーヨガやマッサージでの紹介や夫の同僚からの誘いなどの口コミやチラシでした。また、実際にサロンに行ってみると楽しそうな場所だと思ったからでした。

➤ 親子に関する評価

子どもの成長・発達については、子どもの友だちができたり、子どもが楽しみにしているなど、子どもの成長・発達の変化が見られ、子どもの発達に応じた関わりができ、身体活動のできる広い場所で外遊び・季節に応じた遊びができることを評価していました。親同士の交流については、親同士の支え合いがあり、ほかの親からの子育て方法や子育て講座からの子育て方法を学ぶことができ、「第二の実家」のように居心地の良いホッとできる場であることを評価していました。

➤ スタッフ・居場所評価

スタッフの親への支援については、スタッフの子どもへの適切な対応や、親へのホッとする声かけなど、スタッフは親の心の支えになっており、下の子どもを見てもらえるので、上の子どもと遊べるなど下の子どもの託児や、スタッフからの情報提供を評価していました。居場所の環境については、サロンは子どもの年齢に合わせた遊具と遊び場のある適切な遊び環境であり、「絵本や手遊びをして帰るとい時間メリハリがあって、いつ帰るかの葛藤がないのが良かった」など、適切な居場所運営がなされており、近くて利用しやすい場所である居場所の利便性を評価していました。

5. 調査結果・評価のまとめ

◎ 支援者(スタッフ)を対象にした調査

令和2年度と3年度の事業評価を比べると、40の具体的な目標のうち、「⑦防災・防犯対策を整える」、「⑰日常的な会話等から家庭での子育てや生活習慣の理解に努める」、「⑳専門機関との連携体制を築く」、「㉑親子が集まる場に積極的に出向き、拠点の利用を促す」の4項目以外の具体的な目標については、両年度の間には有意差が確認できませんでした。したがって、この4項目を除く36項目については、両年度の事業評価に変化は認められなかったと言えます。

評価に変化が認められた4項目のうち、「⑦防災・防犯対策を整える」については、令和3年度の事業評価が高くなる傾向があり、その年度に安全管理マニュアルを作成したことによるものと思われます。「⑰日常的な会話等から家庭での子育てや生活習慣の理解に努める」については、令和3年度の評価が有意に高くなっており、子どもの発達に関する学びや、活動の記録と振り返りなどによる支援方法の理解が深まったことが示唆されます。「⑳専門機関との連携体制を築く」については、令和3年度に専門機関の名簿を作成し、スタッフで共有したことから、令和3年度の評価が有意に高くなったと思われます。「㉑親子が集まる場に積極的に出向き、拠点の利用を促す」についても、令和3年度の評価が有意に高くなっており、令和3年度から公民館やおやこクラブと連携を取りながら、出張ひろばに取り組んだことの成果が表れたのだと思われます。

グループ・インタビュー調査の結果からも、外遊びを充実させる環境整備、配慮を必要とする親子への支援、子育て講座の充実、親同士のつながり、振り返りの大切さなどを評価しており、2年間の取組を通して、親子の居場所の理念についての理解が深まり、支援方法の充実が図られたことが推察されます。

◎ 利用者を対象とした調査

子育て不安のプレ・ポスト調査の比較から、「孤独を感じる」については、プレ調査よりポスト調査の順位が低くなる傾向があり、孤独感の軽減が図られたと推察されます。自由記述からサロンで「子育て仲間」ができ、サロンを「息抜き・ホッとできる場」、グループ・インタビュー調査では「居心地の良いホッとできる場」と評価していることから、サロンを利用することによって孤独感を軽減するという親子の居場所の目的が達成できました。

居場所ニーズ・評価については、「子育て講座」はプレ調査よりポスト調査の評価が高く、グループ・インタビュー調査からも、子育て講座から子育て方法を学べたことを評価しており、「子育て講座」の活動効果が明らかになりました。しかし、「事故やケガ防止」については、ポスト調査の評価が低くなっていました。また、自由記述においても老朽化した「すべり台の安全管理」を願っていることがわかりました。安全管理マニュアルを作成し、定期的な安全チェックを実施していますが、さらなる充実を図る必要があることがわかりました。

第4章 就学前親子の望ましい居場所のあり方

みんな和やかサロンは、親子が気軽に集い、親同士の相互交流や相談ができる場、子ども同士が異年齢の中で遊べる場などを設置することにより、参加する子育て親子の不安感や孤立感の解消を図るとともに、子どもの健やかな育ちを支援することを目的に開設しました。この目的の達成のために、第2章の実践と第3章の調査を実施してきました。この実践と評価を踏まえて、本章では就学前親子の望ましい居場所のあり方についてまとめました。

I. 居場所(環境)整備

設備や備品が整っており、利用者にとって居心地のよい場の雰囲気が作り出されている。

居場所には、家ではできない遊びや遊びやすい環境が整っていることが求められる。子どもの発達に応じたおもちゃや絵本などがそろっており、自然に親しむことができ、自然にあるもので遊ぶ発想が生まれる環境を整備（例：P10「季節の遊びをしよう！～落ち葉遊び～」、P11「五感を育てる環境づくり」）することによって、利用者は居心地のよい安心感のある雰囲気の中で過ごすことができる。

スタッフはあいさつや身だしなみを整えるなど、利用者に安心感を与える所作を心がけている。

スタッフは利用者が疎外感を感じないような話しかけ、身ぎれいな服装で穏やかな表情や動作などに気をつける。

施設や遊具の安全点検簿を作成し、定期的に点検が行われている。

利用者やスタッフの安全のため、施設や遊具の点検を行う。また、利用者が施設を適切に利用できるように、注意喚起の掲示やスタッフから口頭で伝える。

事故などの緊急時の対応マニュアルが整備されている。

居場所運営を行ううえで想定される事故や防災などのマニュアルを作成する。それをもとに日頃から利用者を含めた訓練を行い、有事の際にスタッフ、利用者とも慌てることなく行動できるようにする。

感染症への対応ができています。

感染予防対策を行い、清掃・消毒マニュアルを作成し、必要な物品を常備する。スタッフがすぐに対応できるように定期的に訓練をする。

II. 子ども・親子・親同士の交流の場

利用者を温かく迎え入れる雰囲気があり、スタッフとの信頼関係ができています。

初めて居場所を訪れる利用者には、楽しみと同時に、自分たち親子が受け入れてもらえるのかという不安や、初めての場・人に出会うことによる緊張感がある。スタッフが利用者にあいさつ・声かけをすることで、利用者の不安や緊張をほぐす。利用者の名前を呼ぶなど、利用者一人ひとりを大切にすることによって信頼関係を築く。

利用者同士の交流を促している。

スタッフには利用者の様子や利用動機をよく把握したうえで、必要に応じて利用者同士を結びつける役割が求められる。子どもの年齢や居住地域が近いなど、共通の話題を持つ親同士で話ができるように声かけをする。利用者同士の良好な関係が築かれることによって、わが子以外の子どもにも声をかけ、見守ることができるようになる。

Ⅲ. 子ども(遊び)の支援

子ども一人ひとりをありのままに受容している。
子どもの話を聞き、気持ちを受け止め、気持ちを言葉にするなど、わかりやすく話をして見守る。

子ども一人ひとりの発達や個性を理解している。
子ども一人ひとりの発達の特徴(その子らしい見方、考え方、感じ方、関わり方など)を理解し、子どもの発達に応じて、遊びや遊具の配置を工夫し、遊びこめるようにする。

親だけでなく、さまざまな人たちとの関わりの中で子どもの成長を促している。
地域のさまざまな人と出会える居場所で、あいさつをし、一緒に遊ぶなど交流を深め、子どもの社会性を育む。

子どもの自発的な遊びを見守っている。

親は安全が気になり、子どものやりたい遊びに制限をかけることがある。スタッフは子どもが主体的に活動できる環境を整備し、遊びの機会をつくる(例：P16「想像力が広がるおもちゃ」、P17「挑戦！土山！」)。子ども自身が工夫を凝らして遊びを創造できるようになり、やりたいことがやり遂げられたという満足感や達成感が得られる。

Ⅳ. 親(子育て)の支援

親をありのままに受容している。
親の本来もっている子育て力を尊重し、親の話を聴き、気持ちに寄り添い、共感的な対応をする。

日常的に親子と関わり、その会話などから子育て状況について把握している。
子どもの成長や子育てに関して不安を抱く親が多い。スタッフはできる限り親子と関わる時間をもち、何気ない日常会話を通して、不安に思っていることや悩みを把握する。スタッフが親に共感し、寄り添った会話をすることで、親の安心感につなげることができる。

親自身の主体性を尊重した子育て支援をしている。
親が自分自身の強みや良さに気づく働きかけをするとともに、スタッフ自身の価値観を押し付けないようにする。

地域の子育て支援活動や子育てに関する情報を集約し、利用者に提供している。

子育て情報や地域の支援活動をまとめた一覧表などを作成し、掲示する。利用者への情報提供や、利用者同士で子育ての情報交換ができるようにする。(例:P21「おしゃべり会」)

子育て講座の内容は、利用者の困りごとや要望を踏まえて決定している。

利用者ニーズに応じた子育て講座は、子育ての楽しみの増加、不安の軽減につながる。また、参加できなかった利用者に対しては、居場所に子育て講座の内容を掲示することにより情報共有を図り、話のきっかけにすることができる(例:P21「ニーズを踏まえた子育て講座をみんなに」)。

V. 子育て相談(配慮を必要とする子育て家庭の支援を含む)

相談スペースが確保されている。

親のプライバシーを尊重し、親の様子に合わせて相談を受けることができる相談スペースを整備する。

相談内容を記録し共有することができる。

日誌などを通して相談内容を共有し、必要に応じてケース会議を開き、支援計画を立て、支援することができる。

親の悩みや感情を理解・受容し、共感的な態度で問題の軽減が図られている。

居場所での何気ない日常会話から相談に発展することもあるので、スタッフは常に利用者に対して傾聴、共感し、親自身の自己決定を尊重して問題の軽減を図る。

地域の子育て支援の関係機関と連携が取れている。

相談を受け止め、その内容やニーズに応じて、利用者を適切な支援につなぐために、関係機関と連携する。そのためには、居場所の様子を共有するなど、日頃からの関係づくりが大切である。また、必要に応じて関係機関に利用者の近況を聞き、継続的で適切な支援をする。

VI. 地域支援

地域の方と交流する機会がつけられている。

居場所を活用して、利用者と地域の方が一緒に参加するイベントを行うなど、地域の方とともに親子の居場所をつくり、関係性を深める（例：P25「コラム 鯉のぼりを一緒にあげたね！」）。

地域と連携し、居場所の利用につないでいる。

居場所の存在を知らない人や、利用に不安があり居場所に参加できない人のために、スタッフは地域へのアウトリーチを行う。近隣で行われている子育て講座やおやこクラブなどの親子が集まる場を訪問し、居場所やスタッフを知ってもらうことで、親子が安心して居場所を利用するきっかけをつくる。

地域の子育て支援者とのネットワークを構築している。

居場所スタッフだけではなく、地域の子育て支援者を含めた活動や相談などの協力体制を確立している。居場所だけで対応しきれないケースにも、日頃からの協力体制があることで、個別のケースに応じて、より専門性の高い支援者につなぐことができる。

Ⅶ. 運営

居場所としての活動理念と目的・目標を設定し、スタッフ間で共通理解している。

目標に基づいた年間スケジュールを作成する。さらに、月単位の計画をたて、実施後に振り返りを行い、次の計画につなげる。

日々の運営に PDCA サイクルを取り入れ、居場所の質の向上を図っている。

その日の居場所の目標を検討し、1 日の業務の流れに基づいて居場所を運営する。振り返りでは利用状況や活動内容を記録し、居場所やスタッフが抱える課題、疑問点を共有し、解決するなど居場所運営の質の向上を図る。また、物品管理やスタッフのシフトや雇用に関する事柄にも取り組む。

チラシ配布や、ホームページ・SNS などを活用して、居場所の存在を地域に発信している。

居場所を必要としている親子に、居場所の存在が伝わっていないことがあるため、上記の方法で発信していくことで、利用者の増加につなげる。

自己評価・利用者評価・第三者評価を行い、運営の改善に取り組んでいる。

それぞれの評価を行い、振り返りをする。さらに、日々の利用者との対話の中から出る意見を運営に反映させる。

さまざまな研修に積極的に参加し、支援者としての専門性の向上を図っている。

子育て支援に関する法制度や支援方法などを学ぶために、支援者研修などに参加し、専門家のアドバイスを受けることで、スタッフの資質向上に努める。

個人情報保護規定に則って運営している。

氏名・住所などの個人情報や、ホームページ・SNS に掲載する写真についての事前了承など、居場所利用者の個人情報について厳重に管理している。

参考資料

みんな和やかサロンの参考資料

- ① 「就学前親子の居場所」に関する調査報告書(ダイジェスト版)
- ② 年間目標表
- ③ 月目標記入用紙(ねらいと振り返り)
- ④ 1日の流れ(スタッフ用)と名札
- ⑤ 利用者カード
- ⑥ 日誌
- ⑦ リーフレット
- ⑧ おたより
- ⑨ 安全管理マニュアル
- ⑩ 令和2年度・3年度の子育て講座一覧表
- ⑪ 令和2年度・3年度のスタッフ施設見学・研修一覧表

調査結果の参考資料

- 表 3-1-1 令和2年度と3年度の事業評価
- 表 3-2-1 第1回スタッフのグループ・インタビュー調査結果の内容分析
- 表 3-2-2 第2回スタッフのグループ・インタビュー調査結果の内容分析
- 表 3-3-1 子育て不安のプレ・ポスト調査の比較
- 表 3-3-2 居場所ニーズ・評価のプレ・ポスト調査の比較
- 表 3-3-3 プレ・ポスト調査結果の自由記述の内容分析
- 表 3-4 利用者のグループ・インタビュー調査結果の内容分析

参考資料② 年間目標表【その1】

みんな和やかサロン年間目標表(令和3年度)

理念	みんなが笑顔 なんでも話して寄り添うよ 仲間を作って緩やかにつながるよ ごっこ遊びに砂遊び、たまにはケンカする子どもたち やさしく見守るおとなたち 輝く未来が集う サロンで楽しくすごそう！！
目的	親子が気軽に集い、親同士の相互交流や相談ができる場(親子の居場所)、子ども同士が異年齢の中で遊べる場などを設置することにより、事業に参加する子育て親子の不安感や孤立感の解消を図るとともに子どもの健やかな育ちを支援する。

項目	具体的目標	みんな和やかサロン版 活動・業務内容	時期	ニーズ	要項			
Ⅰ 居場所(環境)整備	1. 環境空間(ハード面)を整備する	①設備(コーナー)・備品(外遊び・室内遊びのおもちゃ等)を整備する	・赤ちゃんコーナー(授乳、寝る、おしめ等)を設置する	随時	G1 E2 C1 C2 C3 C4	ア		
			・食事コーナー(敷物、テーブル等の準備)を設置する	随時				
			・発達段階に応じたおもちゃや遊具の準備と管理をする	随時				
			・遊びやすく片づけやすいよう、おもちゃや遊具への工夫(写真掲示など)をする	随時				
			・外遊び、室内遊びの遊具の準備と管理をする	随時				
			・季節の遊びの準備と管理をする	随時				
	2. 環境構成(ソフト面)を整備する	②居心地のよい場をつくる	・自然光や自然の音を大切に	常時	G1 C1 C2 C3 C4	ア		
			・季節を感じる装飾をする	常時				
			・赤ちゃんやその親がくつろげる空間にする	常時				
		③安心感のある場をつくる	・スタッフから話しかけ、疎外感を感じさせないようにする(特に初回利用者)	常時				
			・身ざれいで、穏やかな表情・話し方・動き方をする	常時				
			・スタッフ同士の話や見学者への説明をする際は、利用者に配慮する	常時				
	3. 安全対策・衛生管理をする	④施設・遊具の安全点検・安全管理を行う	・安全点検簿を作成し、遊具等の定期点検を行う	5月まで	G1	ア		
			・定期点検記録を確認し、必要に応じて改善を行う	1ヶ月ごと				
			・施設・遊具の適切な使用方法について掲示や口頭で伝える	常時				
		⑤事故やケガの緊急時対応を行うための体制を整える	・利用者の声も聞き、安全に遊べる場づくりに柔軟に対応する	随時				
			・緊急時対応マニュアルを作成し、利用者と共に定期的に訓練を行う	3ヶ月に1回				
			・緊急時連絡先や医療機関等のリストを作成し、スタッフ間で共有する	4月まで				
		⑥感染症や中毒への対応を整える	・スタッフ間・事務所で事象や対応を共有するための仕組みを整備する	6月まで				
			・おもちゃや共用施設、物品等の清掃・消毒マニュアルを作成・共有する	5月まで				
			・感染症等の発生状況について情報収集して、予防対策を行う	随時				
・対応に必要な物品を常備する			5月まで					
・スタッフ間・事務所で事象や対応を共有するための仕組みを整備する			5月まで					
・防災・防犯に関するマニュアルを作成し、定期的に訓練を行う			7月まで					
⑦防災・防犯対策を整える	・緊急時に連絡がとれるように利用者カードに緊急連絡先を記入し、周知する	7月まで						
	・対応に必要な物品を常備する	7月まで						
	・スタッフ間・事務所で事象や対応を共有するための仕組みを整備する	7月まで						
Ⅱ 子どもの交流・親子・親同士の関係づくり	1. スタッフと利用者との関係づくりをする	・挨拶と笑顔で暖かく迎え入れる	常時	G2	ア			
		・利用者のペースに合わせて会話を	常時					
	2. 利用者同士の関係づくりをする	・公平に接し、対等な関係を持つ	常時					
		・必要に応じて親同士・子ども同士を紹介し、結びつける	随時					
Ⅲ 子ども(遊び)の支援	1. 子どもとの関わりを深める	①子ども一人ひとりをありのままに受容する	常時	G3 C3	ア			
		②地域の人と交流し、子どもの社会性を豊かに育むことに努める	随時					
		③子どもの発達に関する資料を掲示し共有する	随時					
	2. 子ども一人ひとりの発達や個性を理解する	④子どもの個性や発達を理解し、親とともに成長を見守る	・子どもの発達のプロセスを必要に応じて親に話す	随時				
		⑤子どもの興味や関心に共感し、自ら遊びを選択できるように関わる	・遊びや遊具の配置を工夫して、発達に応じて遊びこめるよう促す	随時				
		⑥子ども一人ひとりをありのままに受容する	・親が過剰に介入することなく、子どもたちが自由に遊べるように努める	常時				
	Ⅳ 親(子育て)の支援	1. 親との関わりを深める	⑦子どもの発達に関する資料を掲示し共有する	随時		G4	ア	
			⑧子ども一人ひとりの発達や個性を理解する	・子どもが自分で遊びを考え出し、主体性を発揮する機会をつくる				常時
			⑨子ども一人ひとりをありのままに受容する	・肯定的関心を持って話を聴く、目を見てわかりやすく話す				常時
2. 一人ひとりの子育てを理解する		⑩子どもの興味や関心に共感し、自ら遊びを選択できるように関わる	・親の気持ちに寄り添い、共感的な対応をする	常時				
		⑪日常的な会話等から家庭での子育てや生活習慣の理解に努める	・一人ひとりの親の様子を見て声掛けしたり見守ったりする	常時				
		⑫日常的な会話等から家庭での子育てや生活習慣の理解に努める	・日常生活を大切に	常時				
3. 親の主体性を尊重し、子育てを支援する(親のエンパワメント)	⑬子ども一人ひとりをありのままに受容する	・利用者と共に居場所をつくる(掃除だけでなく、企画を一緒に行う等)	常時					
	⑭子ども一人ひとりの発達や個性を理解する	・親が、自身の強みや良さ(strength)に気づき働きかけをする	随時					
	⑮子ども一人ひとりをありのままに受容する	・自分らしい育児スタイルを少しずつ見えてくる場を作る	随時					
4. 子育てに関する情報を提供する	⑯子ども一人ひとりの発達や個性を理解する	⑯子ども一人ひとりをありのままに受容する	・スタッフ自身の価値観(子育てへの考え方や振る舞い等)を押し付けられないよう日頃から意識し、自身を客観視しながらチームで親を支援する	随時				
		⑰子ども一人ひとりの発達や個性を理解する	・親子自身が自然に学べる機会や環境をつくる(掲示物等)	随時				
	5. 子育て講座等を開催する	⑱子ども一人ひとりの発達や個性を理解する	・親子自身の情報交換の場づくり(おしゃべり会企画など)をする	随時	G4 A2 C5 E3 F3	ウ		
		⑲子ども一人ひとりの発達や個性を理解する	・必要に応じて、各個人に適切な情報提供をする	随時				
		⑳子ども一人ひとりの発達や個性を理解する	・親子のニーズを踏まえた子育て講座を開催する	月1回	G4 A2 C5 D2 E3 E5		エ	
㉑子ども一人ひとりの発達や個性を理解する	・参加者以外にも情報が伝わるように工夫する(掲示や広報物への掲載等)	月1回						

参考資料② 年間目標表【その2】

V 子育て相談 (配慮を必要とする)	1. 相談環境を整備する 2. 子育て相談(ソーシャルワーク)を行う	①相談コーナーを整備する	親の様子に合わせ、適切な場で相談を受けられるよう環境整備する	都度	G5 G6 A5	イ	
		②親の悩みや感情を理解・受容し、共感的な態度で問題の軽減や解決方法を共に考え、最終的に本人の自己決定を尊重する	・寛容な雰囲気場をつくる ・気軽な相談を大切に受け止める ・人としての存在・多様性を尊重する	常時 常時 常時	G5 G6 A5 E1 F2		
		③専門機関との連携体制を築く	・相手の問題のとらえ方を把握する ・専門機関の連絡網を整備し、日頃から関係を築く	常時 8月まで			
		④相談内容を記録、共有する	・日誌の記録で共有すると共に、必要に応じて個人の支援記録を作成する ・必要に応じてケース会議を開き、支援方針を共通理解する仕組みをつくる	毎回 5月まで			
		⑤多世代のボランティアが活躍できる機会をつくり、地域交流を図る	・世を超えた地域の人たちがボランティアとして活躍できる機会をつくりだし、積極的に地域交流を図る	コロナの状況による			
VI 地域支援	1. 地域の人と交流する機会をつくる	①親子が集まる場に積極的に出向き、拠点の利用を促す	・子育てサークル・乳幼児健診などの親子が集まる場に積極的に出向き、拠点の利用を促す	随時		オ	
	2. 地域へのアウトリーチを行う	②地域の子育て支援者の名簿等を作成し、連携を図る	・地域の子育て支援者の名簿等を作成し、互いに連携・協力できる関係(ネットワーク)をつくる	8月まで	F2		
	3. 地域の子育て支援者とのネットワークづくりを行う	③活動理念と目的・目標が明文化され、それに基づく年間スケジュールを作成、共通理解する	・活動理念と目的・目標を明文化する ・目標に基づいた年間スケジュールを作成する ・スタッフ間で共通理解を図る	4月 4月 4月			
VII 運営	1. 活動および運営に関する業務を円滑に行う	④運営全般の会議を行う	・運営ミーティング(実施団体・行政・第三者)を実施する	月1回			
		⑤活動結果をスタッフ間で共有し、振り返り・充実・改善を行う	・日々の活動開始前にその日の目標を確認し、活動終了後に振り返りをする ・スタッフミーティング(日々の運営に携わるスタッフ)を実施する	毎日 月1回			
		⑥利用状況や活動内容を記録する	・毎日の様子を所定の日誌に記録し、保管する ・スタッフの雇用やシフト等に関することを整備する ・スタッフの業務の流れを作成する ・屋内外の配置図作成、物品管理体制を整備する	毎回 4月 4月 4月			
		⑦業務の実施状況や施設の管理状況等を記録する	・自己評価を行い、振り返りをする ・利用者評価を行い、振り返りをする ・第三者評価を行い、振り返りをする ・日々の利用者との対話の中から出る意見を、運営に反映する ・将来的な運営委員会の設置を検討する				
		⑧広報活動を通じて、活動内容等を地域に発信する	・みなん和やかサロン日より発行し、地域に配布・回覧する ・HPやSNSに情報を掲載する	月1回 随時	B1		
		2. スタッフのスキル向上を図る	⑨スタッフ間のチームワーク向上に努める	・日々、活動の確認及び振り返りしながら、チームワークを向上する	常時		
			⑩研修・勉強会・アドバイザーの助言等によりスタッフの資質・専門性の向上に努める	・岡山市や他団体などが実施している研修の機会を活用する ・スタッフミーティングで勉強会を実施する ・アドバイザーを設ける	予定決める 予定決める 月1回		
			3. 守秘義務を守る	⑪利用者の個人情報保護、相談環境や記録の管理等に十分配慮し、義務違反以外に用いない	・明文化された個人情報保護規定に基づき運営する ・プライバシーに配慮して状況に応じて場を選びながら相談を行う ・相談記録や利用者カード等の個人情報は、鍵のついた保管庫で保管する	常時 随時 常時	
		⑫広報誌やHP等での情報の扱いに十分配慮する		・初回利用時に説明し、了解をとる ・写真撮影時は許可をとる	随時 随時		
		⑬ボランティア等にも守秘義務への共通理解を図る		・事前に個人情報の保護方針などを説明し、共有に努める	随時		

※コース ダイジェスト版の左側の項目に沿ってA～G、数字は各項目の上から順に振ったもの(例：C5=「子どもの遊び」の5番目「メディア教育」)
 ※要項 ア: 交流の場の提供と促進 イ: 相談、援助の実施 ウ: 子育て関連情報の提供 エ: 講習等の実施 (オ): 地域の連携や交流 (原告等)

<参考資料>
 1. 「平成31年度岡山市就学前親子の居場所」に関する調査報告書
 2. 『育つ・つながる子育て支援』
 3. 『地域子育て支援拠点ガイドラインの手引 第3版』
 4. 厚生労働省 平成30年度子ども・子育て支援推進調査研究事業「改正児童館ガイドライン」の理解を促すための調査研究成果
 —「児童館ガイドライン」(平成30年10月)を理解するための確認ツールの開発—
 ※コース調査ダイジェスト版に入っていて、本表に含まれていない項目 一大きなことが述べられているので表には含まれないが、特に問題はないように思う
 A1 就学前の子育て家庭の約1/3の未就園児を対象とする親子の居場所の必要性 A3 居住年数が3年未満が40%の子育て家庭の仲間づくり A4 保護者の就業状況に応じた支援
 E2 子どもと一緒に過ごせる場の提供 F1 親子の居場所に関する事業の充実を図る

参考資料③ 月目標記入用紙(ねらいと振り返り)

R3年度みなん和やかサロン 目標(振り返り)記入シート			
2021年度	記入月日	月 日()	記入者
	未就園児(火・水曜日午前)		就園児(木曜日・午後)
I 居場所(環境)整備			
II 子ども・親子・親同士の交流の場			
III 子ども(遊び)の支援			
IV 親(子育て)の支援			
V 子育て相談			
VI 地域支援			
VII 運営			
その他			

R3年度みなん和やかサロン 目標(ねらい)記入シート			
2021年度	記入月日	月 日()	記入者
	未就園児(火・水曜日午前)		就園児(木曜日・午後)
I 居場所(環境)整備			
II 子ども・親子・親同士の交流の場			
III 子ども(遊び)の支援			
IV 親(子育て)の支援			
V 子育て相談			
VI 地域支援			
VII 運営			
その他			

参考資料④ 1日の流れ(スタッフ用)と名札

みんな和やかサロン 1日の流れ (スタッフ用)

時間帯	内容
9時45分 (13時45分)	<p>出勤 スタッフの荷物:奥の机上</p> <p>【園庭の整備と設営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ももっこステーション」の旗を立てる。 ・「みんな和やかサロン」のラミネートを3ヶ所(玄関、窓2ヶ所)に掲示する。 ・「ももっこステーション」三角旗を2ヶ所(玄関、窓)に掲示する。 ・ごみ拾い:鉢の破片が落ちていることもあり。 ・砂場のシート:園庭の掃除中に開けておくことよい。 ・遊具の設置:基本的にはセルフ。 <p>手押し車はスタッフが出しておくことよい。※初めての利用者への配慮</p> <p>【室内の整備と設営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・机の上の消毒、机のセッティングをする。 ・ゴミ箱を持ってくる。 ・カーテンを開ける。 ・利用者対応セットを用意する。 ・トイレ掃除(担当制)をする。 ※水、木は、朝の会場設営は不要。 <p>・スタッフミーティング:テーマや前日の親子の様子を共有する。</p>
10時～ (14時～)	<p>室内対応:スタッフ1名、園庭対応:スタッフ2名 ※臨機応変に対応をする。</p> <p>受付:室内入ってすぐの丸机で行う。 ※天気の良い日などは園庭で受付を行うこともある。</p> <p>初回利用者対応:サロンの説明をする。利用者カード、名札の記入を促す。 配付物を渡す。 ※受付を済ませてから遊んでもらうようにする。(後からでもよい。)</p> <p>利用者の荷物:ロッカーに入れてもらう。 返却用名札:返却用の名札ケースを受付の机に設置しておく。 ※利用者の人数、名前を確認するために使用。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <p>自宅で体温測定をしていない方には、 検温をしてもらう。</p> </div>
11時45分 (15時50分)	<p>絵本、ふれあい遊びの時間。 ※ほかの遊びをしている人たちを無理には誘わない。</p>
12時ごろ	<p>昼食 ※当分は中止。 12時以降も遊んでいる利用者への対応は〇〇、〇〇が対応。ほか2名のスタッフは昼食をとる。</p>
12時50分 (15時50分)	<p>閉所10分前になったら利用者に声をかける。</p>
13時00分 (16時00分)	<p>【室内】 掃除機をかける。ごみを捨てる。トイレも確認する。</p> <p>【園庭】 旗の回収をする。外遊具の片付け確認、イスなども。 ※火、水曜日:現状復帰は不要。木曜日:現状復帰をする。</p> <p>利用者名簿の記入:返却用の名札を基に人数、名前を記入する。 ※名札と利用者名簿には、利用者番号を記入する。 ※名札は受付用のケースに戻しておく。</p> <p>おもちゃの消毒:クリアケースに入れておいた使用済みのおもちゃの消毒を行う。</p>
13時15分 (16時15分)	<p>スタッフミーティング:振り返りを行う。 日誌と出勤簿の記入。</p>
13時45分 (16時45分)	<p>終了</p>

()は木曜日の時間帯。行事や講座実施日によっては、スケジュール内容が異なる場合あり。

【居場所の開設日と時間】

火、水:09時45分～13時45分(開設時間10時～13時)
木:13時45分～16時45分(開設時間14時～16時)

*名札を書いて作ろう

利用者同士の交流のきっかけになるよう、子どもの名札は、学年ごとに色を変えている。



参考資料⑤ 利用者カード（一部のみ掲載）

令和3年度 岡山市市民協働推進事業

受付年月日	年	月	日
-------	---	---	---

こちらで記入します（利用者登録番号）

みんな和やかサロン 利用者カード

家族構成	利用者氏名（ふりがな）		子どもとの続柄（ ）	
			年齢	歳
			電話番号（ ）	
	（ふりがな）	男	西暦	年 月 日生
	子どもの名前	・	（ ）	子ども園・幼稚園（ ）
		女	（ ）	保育園
		（ ）	小学校（ ）年	
	（ふりがな）	男	西暦	年 月 日生
	子どもの名前	・	（ ）	子ども園・幼稚園（ ）
		女	（ ）	保育園
			（ ）	小学校（ ）年
	（ふりがな）			日生
	子どもの名前			（ ）
				）年
	（ふりがな）			）
	大人の			歳代
	備考（ ）			
家族形態	<ul style="list-style-type: none"> ・家族構成 ・家族形態 ・緊急時の連絡先 ・アレルギーなどの有無 ・知っておいてもらいたいことなど 			も+祖父母）
住所	〒 市 区			
緊急時に連絡の取れる電話番号	— —	子どもとの続き柄（ ）	メールアドレス	
アレルギーなど	なし・あり（ ）			
その他、知っておいてもらいたいこと				
どこで、このサロンを知りましたか？				
子どもセンターの広報に写真を掲載してもよろしいですか？	はい ・ いいえ			

*ご記入いただいた個人情報は、岡山市市民協働推進事業における統計、分析等に使用させていただきます。

*サロンに参加したなかで知り得た個人情報、写真をSNSなどで発信することはしないでください。

NPO 法人岡山市子どもセンター

対応者（ ）

参考資料⑥ 日誌（一部のみ掲載）

みんな和やかサロン 日誌		2021年度 月 日 ()	天気
出勤スタッフ		来客者・ボランティア等 (氏名・時間)	
イベント内容・参加者			
利用者数 計 ()人 ()人 ()人 大人 ()人 子ども ()人 園食 (親子)人			
新規登録者数			
今日のテーマ			
<遊びの内容>			
土山	ままごと	トンネル	<手遊び>
山	どんでん返かし	お顔かき	マツト遊び
押し車	水やり	電車・車	
砂場	三輪車	ハズル	
ボール	ぼんとん落とし	折り紙	
アサリコ	ゴロコシ	しりとり	
まへり			

- ・ 今日のテーマ
- ・ 利用者数
- ・ 遊びの内容
- ・ 共有事項など

相談者	対応者名	対応時間	対応場所	相談項目 (下記から)
相談内容		対応		共有事項
<ul style="list-style-type: none"> ・ 相談内容 ・ 相談者、対応者、対応場所 ・ 相談項目など 				
相談内容		対応		共有事項

<相談項目> 下記に当てはまるものがない場合は**具体的に記入**してください
 睡眠/食料/排泄/発達/言葉/身体/運動/情緒 (歩行等) /言葉/情緒/知的能力/内面的・社会的
 課題/不安/発達/コミュニケーション/他者との関わり/他者との関わり/他者との関わり/他者との関わり/他者との関わり
 相談者との関係性・療育の仕方/おまじり/教育・保育/大人との関係/子どもとの関係/子どもとの関係/子どもとの関係

みなん和やかサロン

子育てのほころびを癒す場所

子育てのほころび、
風になることを
相談できる
スタッフがいますよ



お庭でも
お部屋の中でも
自由に遊べるよ



お庭には
お友だちと
一緒に
食べられるよ












子育て講座

あそび

イベント

子育て講座、あそび、イベント、今もたくさんあります。

みなん和やかサロン

雨の日も
開いてるよ

季節を感じ
文化に触れる
体験できるよ

開催日：毎週
火曜日・水曜日 10時から13時
木曜日 13時から16時

開催場所：NPO法人岡山市子どもセンター
(ベターライフ御南の一角)

妊婦さんち
どうぞ

いつ来て
いつ帰っても
いいよ

お昼を食べることができ
豊のスペースがあるよ
お弁当の時間は12時ごろから

スタッフの思い

子どももおもしろい。名前のつかない遊び、自分のやりたい遊びを時にはけんかしながらも、お互いの顔を見たりして遊んでいる。子どもも無限の可能性を感じる。「うちの子は食が細くて」「なかなか言葉が出なくて」と不安そうなお母さん。「昨日初返りの瞬間を見たんですよ」「こうすれば食べなくて」と弾む声のお母さん。どのお母さんも子育てに一生懸命。親になってまだ2~3年。肩の力を抜いて子育てしてほしい。地域の方とも交流できる場でありたい。子ども、保護者、地域の方との日々の関わりの中で、私たちも学び気づき、交流の大切さを実感しています。ゆったりゆっくり過ごせる、みんなで作る楽しい居場所。

温かいみんな和やかサロンを目指していきます。

特定非営利活動法人岡山市子どもセンター
〒701-0144 岡山市北区久米346番地
TEL : 086-242-1810
FAX : 086-242-1830
E-MAIL : info@kodomo-npo.jp

HP Facebook Instagram

HP QRコード
Facebook QRコード
Instagram QRコード

日時、季節を
更新中！
チェックして！

みなん和やかサロンはベターライフ御南の一角ですが、駐車場は白石駅前広場にお預かりします。駐車料、駐車券は御南へ歩いてください。J Aの角を右折して御南の角に御南入口が御南まであります。御南の御南までどうぞお越しください。(徒歩5分)

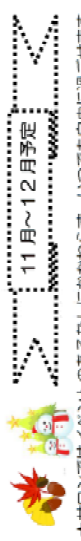
令和2年度 岡山市民協働推進モデル事業に採択されました。

アツなMAP
駐車場は白石駅前広場の裏です。



なご
みなん和やかサロンだより
NPO 法人岡山山子子どもセンター
令和3年10月23日 №18

40日ぶりのサロン再開は10月5日「伝承のわらべうた」の子育て講座から始まり、スタッフも利用者もリアルで会える、一緒に空間に居られる喜びで、笑顔や子どもたちの声があふれる初日となりました。前半は夏を想わせるくらい曇りで、つい打ち水したり、水遊びしたりして遊びましたが、後半は朝夕が急に冷え込みました。これから気持ちの良い季節となります。先日、秋を感じながらおさんぽ遠足もしました。コロナ感染者も一桁が騒いでいます。しっかり自分たちでできる対策をしながら、ずっとサロンが開催されますよう気をつけていきたいと思っております。これから延期となっている講座も目白押しです。親子が楽しく遊び、リラクゼーションした笑顔から私たちは元気を感じています。気軽に遊びに来てください。



★サロンではイベントのあるなしにかかわらず、いつでも自由にご参加いただけます。
★コロナ対策として消毒液を用意しています。サロン入室の際にも検温していますが、自宅でも、検温してきてください。37.5度以上及び咳の出る方はサロン利用をご遠慮ください。 マスクの着用をお願いします。
★サロンでの感染症は、中止にしています。★予定は変更することがあります。

*火曜日 (1000~1300)	*水曜日 (1000~1300)	*木曜日 (1400~600)
11/2	11/3 文化の日	11/4
11/9	11/10	11/11 総会の高松やすみ
11/16	11/17	11/18
11/23 勤労感謝の日	11/24 10:30~11:30 参加費500円 講座と遊び「落ち葉で遊ぼう」 講師：土田豊先生(中国短期大学) 親子：10組 要申込み 11/18	11/25
11/30 10:30~11:30 参加費500円 講演会「子どもと笑顔で暮らす・育てる」 講師：岡山友の会 親子：10組 要申込み 11/24	12/1	12/2
12/7	12/8 10:30~11:30 参加費500円 講演会「伝子子どもとおもちゃ」 講師：西江利子 親子：10組 要申込み 12/2	12/9
12/14	12/15	12/16
12/21	12/22	12/23
12月24日~2022年1月10日までお休みです		
2022年1/11	1/12	1/13

子どもは「遊び」で
ヒトになり
人間になる
野井 美香さん

幼児期に大切な遊びの重要性をシリーズでお伝えします。
2回目は、9月19日に「とうきょうプレイデー」に出席された日本体育大学教授 野井美香先生の記事を紹介します。
「遊び」です。動物は「動く物」として生まれ、動く遊びはヒトにも人間にもなれます。また、ヒトは「人間」でもあります。人間は「人の間」と書かずに、家族や仲間と群れて進化してきました。決して、一人で進化してきたわけではありません。このことは、いまを生きる子どもたちも同じです。AI社会が到来しても同じです。
むしろ、「動くこと」、「群れること」が制約されそうな、そのような社会になればなるほど、そのことを強く自覚しておく必要があると思います。その点、「動くこと」、「群れること」を必然的に保障する遊びには、子どもたちの「育ち」と「学び」が必然的に保障されています。裏を返すと、子どもたちがヒトになり、人間になるためには、「遊び」が不可欠なものです。遊んでいるときに子どもたちの目が輝くのはそのためなのだと思います。発達欲求なのだと思います。このように考えると、「遊び」には無限の可能性があるとさえ言えます。

スタックコラム

「多様性」という言葉、よく耳にするようになりましたね。人って本当にさまざま！「頭も性格も考え方も」。『違う』と戸惑うこともあるけれど、人は『違う』からこそ面白い！子育てにおいてはどのようにしよう？
わが子はややもすると自分の分身かのように認識しがることも、ありませんか？でも、どの子も親とは全く別の人格をもつ一人の人間。感受性だって好みだって何だって、親と違って当たり前。
へー、この子はそう感じたのか、そう行動するのかなど面白がりながら「多様性」を尊重してあげようというですね。



特定非営利活動法人岡山山子子どもセンター

〒701-0144 岡山市北区久米3-48番地
TEL : 086-242-1810
FAX : 086-242-1830
E-MAIL : info@kodomo-npo.jp
HP 岡山山子子どもセンター
Facebook Instagram
Twitter LINE
お問い合わせはこちら
電話・相談も
お気軽に
チェックしてね！

みなん和やかサロン10月の様子
水お給がきは大人気！



2歳の伸長しさん。
「ボトト屋さんで
すいっしっやいま
せ〜」

1歳さん。どんぐりコロコロ初トライ？！

10/5子育て講座「わらべうた」
講座内容は、サロンに特示しています。
(感想から)

・物の取り合いをすると、母親同士で解決したり、「まじってあげなまや」と言い聞かせたりしていました。子ども同士で解決させるように戻っていきみたいです。
・遊ぶにもちゃんと思いがあることが知れてとても勉強になりました。
・しっかりと「今は〇〇する時」ということを目を見ながら伝え、メリハリをつけて接したいと思いました。



みなん和やかサロンはベネッセグループの中で、最善は
白石新築館にお届けいたします。最善は、新築館から徒歩5分程度
です。3Aの角を右折して進むと左に階段入口が見えます。
※駐車場は台車に限りあります。近くの角はできるだけ徒歩
自販機でサロンへお越しください。



就学前親子の居場所づくり事業
みなん和やかサロン
安全管理マニュアル



令和3年8月30日
NPO法人岡山子どもセンター

【マニュアルの主な内容】

- ◆ 緊急連絡について
- ◆ 事件や事故の事後処理について
- ◆ ケガ・急病が発生した場合の行動表
- ◆ 不審者が現れた場合の行動表
- ◆ 火災が発生した場合の行動表
- ◆ 地震が発生した場合の行動表
- ◆ 緊急時連絡体制表

- ・資料①施設・設備安全点検記録簿
- ・資料②嘔吐物の処理方法
- ・資料③コロナ感染防止対策（サロン利用時）
- ・資料④サロンに来てから子どもが具合が悪いとき・ケガで出血したとき
- ・資料⑤救急車の呼び方

* 情報共有に作成したものを業務の参考として掲載。（電話番号、個人名は削除）

緊急連絡について

* 情報共有に作成したものを業務の参考として掲載。（電話番号、個人名は削除）

万が一、活動時にケガや事故等が発生した場合、以下の流れにより緊急連絡をする。

1. 緊急連絡が必要なケース

みなん和やかサロン活動時（出張ひろば、お散歩遠足、スタッフミーティングや活動に必要な準備や打ち合わせ、往來も含む）において、以下事業が発生した場合

- (1) ケガ・急病が発生した場合
- (2) 不審者が現れた場合
- (3) 火災が発生した場合
- (4) 地震が発生した場合

2. 緊急連絡時に報告する内容（該当する項目について）

- (1) 対象者の氏名、年齢、連絡先
- (2) その場で行った主な処置
- (3) 発生した時刻、状況
- (4) 対応した者の氏名と連絡先

※ これらの情報は、法人あるいはみなん和やかサロン事業において把握しておくべき情報として報告するものであり、第三者に伝える目的を有するものではない。

※ これらの情報は、岡山市担当課や関係者など、運営に関わる団体・個人に確実に連絡・報告を行えるよう、以下の流れに沿った連絡体制を確認する。

3. 緊急連絡の流れ

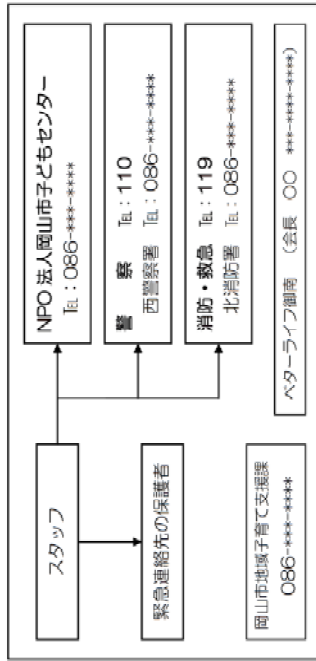
```

graph TD
    A[発生した事象の把握と報告] --> B[救急への連絡  
心電測置  
医療機関への搬送  
警察への通報等]
    B --> C[みなん和やかサロン責任者  
〇〇  
〇〇]
    B --> D[岡山地域子育て支援課  
086-*****]
    C --> E[NPO法人岡山子どもセンター  
事務所 086-*****  
<代表理事 〇〇>]
    D --> F[ベターライフ岡山  
(会長 〇〇) *****]
    
```

事故等の発生

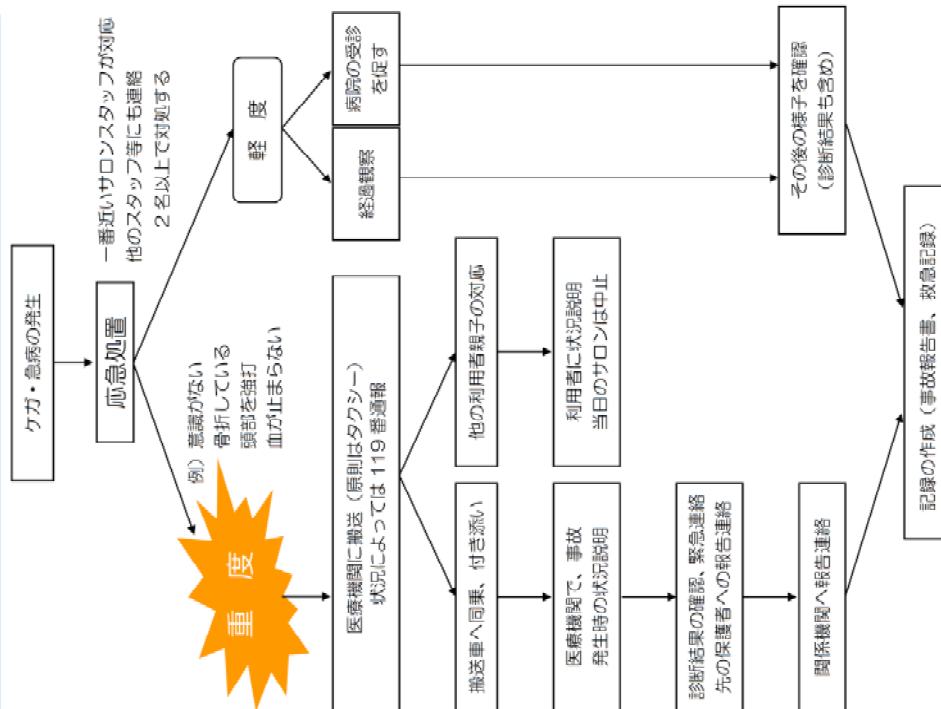
*情報共有用に作成したものを業務の参考として掲載。（電話番号、個人名は削除）

《緊急時連絡体制表》



医療機関名等	電話番号	診療時間 休診日等
市立市民病院 (北区**)	086-****-****	平日 8:30-11:00 緊急・救急は この限りでない
内科・循環器内科 (北区**)	086-****-****	9:00-12:30 15:00-18:30 (休) 本休、日・祝
整形外科医院 (北区**)	086-****-****	9:00-12:30 15:00-18:30 (休) 本休、日・祝
眼科 (北区**)	086-****-****	8:30-12:00 14:30-17:30 (休) 土休、日・祝
耳鼻咽喉科医院 (北区**)	086-****-****	9:30-12:30 15:15-17:45 土 9:30-13:00 (休) 水・日・祝
小児歯科 矯正歯科クリニック (北区**)	086-****-****	9:30-12:30 14:30-18:30 土 9:00-12:30 14:00-17:30 (休) 水・日・祝
タクシー 会社	086-*-**** 086-****-****	
市病院内救急ダイヤル	086-*-****	

ケガ・急病が発生した場合の行動表



参考資料⑩ 令和2年度・3年度の子育て講座一覧表

No.	日付	令和2年度 子育て講座内容	講師	参加者数
1	7/15(水)	口から考えよう 生活習慣作り	山本誠二 (やまもと小児歯科・矯正クリニック)	9人
2	9/9(水)	本でホンとに役に立つ！ ～家庭での読みあいのコツとは～	おはなしサークル「そらきたホイ！」	13人
3	9/30(水)	タオルであそぶ！親子ふれあい体操	坂井俊之 (運動遊びの塾SKIP)	12世帯
4	10/14(水)	子どもが積み重ねる、体験の図書館 ～画面の外のチャレンジが、親子をイキイキワクワクさせる～	筒井愛知 (就実大学 非常勤講師)	9世帯
5	10/28(水)	子どもの食事は、無理なく楽しく バランスよく	岡山友の会	10人
6	11/25(水)	落ち葉で遊ぼう	土田豊 (中国短期大学 准教授)	12世帯
7	12/8(火)	子どもが積み重ねる、体験の図書館 ～画面の外のチャレンジが、親子をイキイキワクワクさせる～	筒井愛知 (就実大学 非常勤講師)	6世帯
8	12/9(水)	自分が好きと言える子に ～自己肯定感を育む～	赤迫康代 (NPO法人子ども達の環境を考えるひこうせん 代表理事)	10世帯
9	1/20(水)	毎日が冒険の子どもたちのために	深瀬みどり (NPO法人みんなの劇場・おかやま 副代表理事)	9人
10	1/26(火)	『自然免疫』を高めるために 暮らしのなかでできること	木林京子 (小児科医)	10人
11	2/9(火)	伝承のわらべうた遊び	井上美鈴 (わらべうたサークル主宰)	10世帯
No.	日付	令和3年度 子育て講座内容	講師	参加者数
1	7/7(水)	水遊びとからだのお話	土田豊 (中国短期大学 准教授)	10世帯
2	10/5(火)	伝承のわらべうた遊び	井上美鈴 (わらべうたサークル主宰)	10世帯
3	10/12(火)	子どもが積み重ねる、体験の図書館 ～画面の外のチャレンジが、親子をイキイキワクワクさせる～	筒井愛知 (就実大学 非常勤講師)	8人
4	11/24(水)	落ち葉で遊ぼう	土田豊 (中国短期大学 准教授)	10世帯
5	11/30(火)	子どもと笑顔で暮らす・育てる	岡山友の会	5人
6	12/8(水)	子どもの個性を伸ばすおもちゃ選び	西江利子 (おもちゃコンサルタント)	10世帯

参考資料⑩ 令和2年度・3年度のスタッフ施設見学・研修一覧表

No.	日付	令和2年度スタッフ研修および施設見学	講師	スタッフ参加者数
1	10/23(金)	『自然免疫』について学ぶ ～子育て親子のすやかな生活のために 子育て支援者としてできること～	木林京子 (小児科医)	2人
2	10/30(金)	岡山市南方岡山中央地域子育て支援センター 施設見学	—	3人
3	11/11(水)	地域子育て支援拠点等従事者 基礎講座①	赤迫康代 (NPO法人子ども達の環境を考えるひこうせん 代表理事)	2人
4	12/3(木)	子育てサポーター養成講座 幼児向けの3密にならない遊びと楽しく遊ぶ知恵	森美智子 (岡山市レクリエーション協会)	4人
5	12/16(水)	地域子育て支援拠点等従事者 基礎講座②	赤迫康代 (NPO法人子ども達の環境を考えるひこうせん 代表理事)	3人
6	12/17(木)	地域子育て支援拠点「わくわくる一む」(備前市) 施設見学	—	3人
7	1/16(土)	気になる子どもの保護者への相談支援	平尾太亮 (中国短期大学 准教授)	6人
8	1/28(木)	地域子育て支援拠点等従事者 発展研修	赤迫康代 (NPO法人子ども達の環境を考えるひこうせん 代表理事)	1人
No.	日付	令和3年度スタッフ研修および施設見学	講師	スタッフ参加者数
1	4/19(月)	今、求められている子育て支援とは	八重樫牧子 (新見公立大学 特任教授)	6人
2	6/28(月)	対人援助の本質と事例研究①	八重樫牧子 (新見公立大学 特任教授)	6人
3	7/6(火)	地域子育て支援拠点「わくわくる一む」(備前市) 施設見学	—	3人
4	10/8(金)	地域子育て支援拠点等従事者 基礎講座①	赤迫康代 (NPO法人子ども達の環境を考えるひこうせん 代表理事)	2人
5	10/18(月)	岡山市の子育て支援について	岡山市 地域子育て支援課	6人
6	11/5(金)	子育てサポーター養成講座 3歳までに大切にしたいこと	和田亜依子 (茶屋町母と子のサロン 助産師)	2人
7	11/12(金)	地域子育て支援拠点等従事者 基礎講座②	赤迫康代 (NPO法人子ども達の環境を考えるひこうせん 代表理事)	2人
8	11/19(金)	地域子育て支援拠点等従事者 発展研修	赤迫康代 (NPO法人子ども達の環境を考えるひこうせん 代表理事)	1人
9	11/28(日)	激変する子どものメディア環境 ～子どもの育ちと学びを考える～	清川輝基 (NPO法人子どもとメディア代表理事)	2人
10	12/13(月)	子育て応援こっこ(総社市) 施設見学	—	6人
11	12/13(月)	赤ちゃんのからだどっこ紐の使い方など	伊藤家生 (NPO法人きよね夢てらす 子育て応援こっこ 助産師)	6人
12	12/15(水)	防災訓練(消火訓練、起震車体験)など	岡山市消防局 西消防署	6人
13	12/19(日)	気になる子どもの保護者への相談支援	平尾太亮 (中国短期大学 准教授)	6人

調査結果の参考資料

表 3-1-1 令和2年度と3年度の事業評価

具体的目標 R3	中央値 R2	中央値 R3	正確な有意確率 (両側)	有意差
①設備(コーナー)・備品(外遊び・室内遊びのおもちゃ等)を整備する	2	2	1.000	ns
②居心地のよい場をつくる	1	1	1.000	ns
③安心感のある場をつくる	1	1	0.715	ns
④施設・遊具の安全点検・安全管理を行う	2	2	0.294	ns
⑤事故やケガの緊急時対応を行うための体制を整える	3	2	0.335	ns
⑥感染症や中毒への対応を整える	2	2	0.384	ns
⑦防災・防犯対策を整える	3	2	0.090	†
⑧親しみやすい雰囲気や日頃から利用者と関わり、気兼ねなく話をする	1	1	1.000	ns
⑨親同士、子ども同士の関わりを促す	2	1	0.710	ns
⑩自分の親以外の大人、我が子以外の子どもとの関わりを促す	2	2	0.633	ns
⑪子ども一人ひとりをありのままに受容する	1	1	1.000	ns
⑫地域の人と交流し、子どもの社会性を豊かに育むことに努める	2	3	0.145	ns
⑬子どもの個性や発達を理解し、親とともに成長を見守る	2	1	0.153	ns
⑭子どもの興味や関心に共感し、自ら遊びを選択できるように関わる	2	1	0.637	ns
⑮親一人ひとりをありのままに受容する	2	1	0.637	ns
⑯支援者に手助けを求められるよう日常的に親子と関わることを大切にする	2	1	0.637	ns
⑰日常的な会話等から家庭での子育てや生活習慣の理解に努める	2	1	0.020	*
⑱親の主体性を尊重した子育て支援を行う	2	2	0.674	ns
⑲スタッフ自身が自己覚知に努める	2	2	0.629	ns
⑳子どもとの遊び方(メディア含む)、しつけの方法、気がかりなこと等への対応について情報提供する	2	2	1.000	ns
㉑子どもとの遊び方(メディア含む)、しつけの方法、気がかりなこと等への対応に関する子育て講座を開催する	2	1	0.153	ns
㉒相談コーナーを整備する	3	3	0.236	ns
㉓親の悩みや感情を理解・受容し、共感的な態度で問題の軽減や解決方法を共に考え、最終的に本人の自己決定を尊重する	2	2	0.633	ns
㉔専門機関との連携体制を築く	3	2	0.038	*
㉕相談内容を記録、共有する	2	2	0.485	ns
㉖多世代のボランティアが活躍できる機会をつくり、地域交流を図る	3	3	0.691	ns
㉗親子が集まる場に積極的に出向き、拠点の利用を促す	3	2	0.030	*
㉘地域の子育て支援者の名簿等を作成し、連携を図る	4	2	0.278	ns
㉙活動理念と目的・目標が明文化され、それに基づく年間スケジュールを作成、共通理解する	2	1	1.000	ns
㉚運営全般の会議を行う	2	1	0.350	ns
㉛活動結果をスタッフ間で共有し、振り返り・充実・改善を行う	1	1	1.000	ns
㉜利用状況や活動内容を記録する	1	1	0.650	ns
㉝業務の実施状況や施設の管理状況等を記録する	2	1	0.547	ns
㉞自己評価、利用者評価、第三者評価、利用者や地域の子育て支援者との話し合い等に基づき、運営の改善に取り組む	2	2	0.719	ns
㉟広報活動を通じて、活動内容等を地域に発信する	2	1	1.000	ns
㊱スタッフ間のチームワーク向上に努める	2	1	0.370	ns
㊲研修・勉強会・アドバイザーの助言等によりスタッフの資質・専門性の向上に努める	2	1	0.656	ns
㊳利用者の個人情報保護、相談環境や記録の管理等に十分配慮し、義務遂行以外に用いない	1	1	0.628	ns
㊴広報誌やHP等での情報の扱いに十分配慮する	1	1	0.650	ns
㊵ボランティア等にも守秘義務への共通理解を図る	2	2	0.995	ns

* : オレンジ色、Mann-Whitney 検定の結果、 $p < 0.05$ の水準で有意差があった項目

1 : とてもそう思う 2 : だいたいそう思う

† : クリーム色、Mann-Whitney 検定の結果、 $0.05 < p < 0.1$ の水準で有意差の傾向があった項目

3 : あまりそう思わない 4 : 全くそう思わない

ns : 有意差無し

表 3-2-1 第 1 回スタッフのグループ・インタビュー調査結果の内容分析

大カテゴリ	中カテゴリ	カテゴリ	コード	
居場所 (24)	居場所（環境）の整備 (20)	おもちゃや遊具の準備と管理 (8)	発達段階に応じたおもちゃの準備と管理 (2)	
			おもちゃや絵本など整理・検討する時間が必要 (3)	
			遊びやすく、片付けやすいようにおもちゃの管理を工夫 (3)	
		季節の遊び環境の準備と管理 (3)	季節の遊びの準備と管理 (1)	
			利用者が一緒に環境づくりに参加できるような配慮 (2)	
	居心地のよい、安心な環境整備 (1)	母親が居心地のよい、子どもが安心して遊べる居場所づくり (1)		
	安全対策 (8)	子どもにとって安全な室内環境 (2)		
		地震対策 (6)		
	子ども・親子・親同士の交流の場 (4)	利用者スタッフの関係づくり (1)	利用者へのあいさつや声かけ (1)	
			親同士をつなぎ、関わりを促す (2)	
利用者同士の関係づくり (3)		自分の子ども以外の子どもの関わりを促す (1)		
支援 (51)	子ども（遊び）の支援 (9)	子どもをありのまま受容 (1)	子どもに対する傾聴・受容・見守り (1)	
		子どもの発達に応じた遊び (4)	自然の中の外遊びを促す (3)	
			季節に応じた遊びを促す (1)	
		子どもの主体性を尊重 (4)	子どもの主体性を大切にしたい見守り・声かけ (4)	
	親（子育て）の支援 (32)	子育てを理解する支援 (1)	親に子どもの受容について伝える (1)	
			お散歩遠足（プログラム）の企画・準備・実施 (11)	子どもの年齢を踏まえ、子どものペースを重視 (5)
				参加者のことを考えた回数・ルート (4)
		安全対策・衛生管理を踏まえる (2)		
		おもちゃ作り（プログラム）の企画・準備・実施 (20)	親子で一緒に楽しめるおもちゃ作り (7)	
			子どもの発達段階を踏まえたおもちゃ作り (5)	
	家庭で手作りおもちゃを使った遊びの発展 (5)			
	手作りおもちゃで遊んだ様子を共有 (2)			
	地域支援 (10)	地域との連携 (10)	地域の人と協力した部屋の片付け (8)	
活動についての地域の人との共通理解 (2)				
安心して、のびのびと主体的に遊ぶ (8)				
変化・ 評価 (55)	利用者の変化・評価 (31)	子どもの様子の変化 (17)	他の子どもと遊ぶことができる (7)	
			スタッフと遊び、関わるすることができる (2)	
			父親同士の口コミで利用 (3)	
		親の様子の変化 (10)	利用者同士のつながりが地域に広がる (1)	
			日常的な会話のなかでの相談 (2)	
			子どもをしっかり見守ることができる (1)	
	利用者評価 (4)	他の親やスタッフと積極的に話をする (2)		
		自分の特技などの活用 (1)		
		他の子どもとの関わりを見て安心 (1)		
	支援者自身の変化・評価 (24)	支援者自身の変化 (17)		外遊びができること (1)
				開催日を増やしてほしい (1)
				子どもの成長に感謝 (1)
				日々の振り返り (6)
				月 1 回の振り返り (1)
		今後の抱負 (7) (居場所のあり方・理念)		自分の強みの自己覚知 (2)
スタッフ相互のスキル向上 (4)				
講座や勉強会によるスキルの向上 (4)				
みんなで子育てをすることの大切さ (2)				
		信頼関係を築くために自分から声かけをすることが大切 (1)		
		情報交換など楽しい時間を過ごす (1)		
		子育て支援の専門職がいる (1)		
		安心して和やかに楽しく過ごせる (2)		

注) () の数字は記述数

表 3-2-2 第 2 回スタッフのグループ・インタビュー調査結果の内容分析【その 1】

大カテゴリ	中カテゴリ	カテゴリ	コード
居場所の整備 (17)	遊び環境の整備 (5)	子どもの遊び環境整備 (2)	子どもたちのやりたいことが楽しんでもできる環境 (1)
			子どもの動き、遊びの流れに沿った準備 (1)
		安全管理 (1)	安全マニュアルを作成し、それに沿った安全管理 (1)
		部屋の確保 (2)	使える部屋を増やす (2)
	遊具の整理・管理 (8)	おもちゃの整理・管理 (4)	密にならないようにおもちゃを床に移動 (2)
			おもちゃを消毒するために、おもちゃを半分に厳選 (1)
			おもちゃを減らしたことで子どもの遊びに影響なし (1)
		絵本の整理・管理 (4)	離れても楽しめるような大型絵本を読む工夫 (1)
	遊びを充実させる環境整備 (4)	外遊びを充実させる環境整備 (2)	水遊びなど外遊びを充実するための環境整備の工夫 (2)
			室内遊びを充実させる環境整備 (2)
支援評価 (52)	親子への支援 (16)	子どもの遊びの支援 (12)	密にならないような声かけ (1)
			天気の良い時は外遊びの声かけ (2)
			子どもの興味のある遊びができるような声かけ (1)
			徐々に遊び込めるような見守り (2)
			季節に合った遊び (3)
			子どもの発達に合わせた遊び (工作など) (1)
			子どものやりたいような遊びができること (1)
			物の取り合いは少なかった (1)
		親への支援 (4)	親を温かく迎え入れるあいさつ (1)
			親が子どもを見守ることが浸透した (1)
	配慮を必要とする親子への支援 (18)	家から水着を着せて来る親への配慮 (8)	すぐだめだとは言わないで、親の気持ちや思いを言葉にして理解を示す (4)
			水着を家から着て来るのはよくないことを説明する (1)
			正しい知識をやさしく伝え、問題意識を共有 (3)
		双子を育てる親への配慮 (10)	双子を持つ親への自然なサポート (2)
			双子の一人はスタッフが、もう一人には親が対応する (1)
			双子の親子にとっては必要な場 (1)
			週 3 日利用し、良かった (1)
			気になっていることを話すことができるようになった (1)
			サロンでの子どもとの関わりを家でも生かしている (1)
			早く再開されることを希望 (1)
親がゆとりをもって子どもを見ることができるようになった (2)			
子育て講座 (18)	講座参加者の選び方 (4)	昨年参加できなかった人を優先 (1)	
		利用者に講座の内容を話す (1)	
		参加を断ることはなかった (1)	
		広報期間が短く、直前のお知らせになった (1)	
	講座の参加状況 (5)	令和 3 年度から有料(500円)にしたが参加している (1)	
		父親の参加もあった (4)	
	講座の進め方 (3)	わらべうた・メディア・遊びに関する講座は、毎年講座の計画に入れる (1)	
		利用者に聞いてほしいと思う講座を入れる (1)	
	水遊びの講座の効果 (2)	講座が終わった後、参加者の話を聞く (1)	
		水遊び講座で使ったおもちゃを 1 か月借用して使用 (1)	
わらべうたの講座の効果 (3)	水遊び講座に参加していない親子も遊ぶことができた (1)		
	わらべうたの講座に参加していない母親にも伝えた (1)		
メディアの講座の展開 (1)	0歳の子どものわらべうたをスタッフが活用している (2)		
	母親や子どもの声を聞いて講座を展開 (1)		

表 3-2-2 第 2 回スタッフのグループ・インタビュー調査結果の内容分析【その 2】

大カテゴリ	中カテゴリ	カテゴリ	コード
変化に関する評価 (24)	子どもの変化 (6)	子どもの集団遊び (5)	2 歳児の 3 人が関係を育んでいる (2)
			3 人が幼児語を交えながら遊んでいる (2)
			3 人で手押し車を使った遊びをしていた (1)
		共通の遊び体験 (1)	たまに会う短い時間(2 時間)で共通の遊びを体験 (1)
	親の変化 (10)	親同士の信頼関係・支え合い (3)	親同士も仲良くなり、安心感もある (1)
			親同士の信頼関係ができていく (1)
			親同士の自然な助け合い (1)
		先輩ママの後輩ママへの支援 (3)	長く来ている人は新しく来た人へ心遣いをしている (1)
			スタッフが利用者へ、他の利用者の支援をお願いすることもある (1)
			名札の付け方などを他の先輩ママから教えてもらっていた (1)
	子どもたちを取り巻く親たちの輪 (4)	親が取り巻く大きな輪の中に子どもがいるという雰囲気 (3)	
		新しい人が入ってくる居心地の良い輪 (1)	
	スタッフの変化 (8)	スタッフの学び (2)	スタッフ間で本を回覧して学んだ (1)
			1～2 歳の発達に関する勉強会で子どもの見方などを共有 (1)
		振り返りの大切さ (2)	日誌に目標・対応を書くことによる自分の対応の振り返りができた (1)
			自分の対応を振り返り、保護者との関わりに生かすことができた (1)
振り返りによる気づき (4)		下の子を抱っこしている親にその子をマットにおろし、上の子を見てあげるように声かけをする (1)	
		子どもが土山に行った時、全体が見れるような位置に座る・立つ (1)	
大事にしたこと (13)	対等な関係性 (3)	利用者スタッフと同じ立場でともに学ぶ (1)	
		利用者スタッフの対等な信頼関係 (1)	
		利用者スタッフの対等な信頼関係を大切にする (1)	
	子育て支援 (9)	親支援の重視 (3)	利用者同士が助け合うお互いさまの子育てを伝える (1)
			親の支援に重きを置きたい (1)
			親が子どもへの関わり方や、子どもとの遊びのヒントなどを学べる場所になってほしい (1)
		親子への伴走的支援 (4)	通勤族の親に岡山の子育てが良かったと思い出してもらえるような支援 (1)
			子どもとの関わりが勉強になっている (1)
			親子に伴走したいという気持ち (1)
	多様性の尊重と親子に対する広い視野 (1)	教えるというよりも、一緒に迷ったり悩んだりしながらサポート (2)	
地域への広がり (1)	多様性を大事にし、親や子どもを広い目で見ることができる (1)		
	利用者同士のサロンでのつながりが公園での遊びにも広がっていく (1)		
外遊びの重視 (1)	外遊びの良さを伝える (1)		

注) () の数字は記述数

表 3-3-1 子育て不安のプレ・ポスト調査の比較

項目	順位平均値		中央値		a. Wilcoxon の 符号付き順位検定		有意差
	プレ	ポスト	プレ	ポスト	Z	正確な有意 確率 (両側)	
生活にゆとりがない	2.8	2.9	3.0	3.0	-1.069 ^b	0.432	ns
子どもに対してイライラする	2.7	2.5	3.0	2.0	-1.500 ^c	0.213	ns
子どもをうまく育てていない	2.7	2.6	3.0	3.0	-1.155 ^c	0.388	ns
どうしたらよいかわからない	2.5	2.4	2.5	2.0	-0.258 ^c	1.000	ns
自分一人の子育てに圧迫感	3.0	2.9	3.0	3.0	-0.500 ^c	0.807	ns
子育てでがまんばかりしている	2.8	2.8	3.0	3.0	0.000 ^d	1.000	ns
孤独を感じる	2.9	3.2	3.0	3.0	-1.995 ^b	0.063	†
リラックスできる時間がない	2.9	3.0	3.0	3.0	-0.775 ^b	0.531	ns
自分の楽しめることをしていない	3.2	3.1	3.0	3.0	-0.233 ^c	0.872	ns

注1) 1:よくある 2:時々ある 3:ほとんどない 4:全くない

注2) b. 負の順位に基づく c. 正の順位に基づく d. 負の順位の合計は正の順位の合計に等しい

注3) ns:有意差無 † (クリーム色): 0.05 < p < 0.1 有意差傾向有

表 3-3-2 居場所ニーズ・評価のプレ・ポスト調査の比較

項目	順位平均値		中央値		a. Wilcoxon の 符号付き順位検定		有意差
	プレ	ポスト	プレ	ポスト	Z	正確な有意 確率 (両側)	
身体を動かす	1.1	1.1	1.0	1.0	-1.000 ^b	0.625	ns
子どもが遊びやすい遊具・場所	1.1	1.2	1.0	1.0	-1.000 ^b	0.508	ns
事故やケガ防止	1.3	1.6	1.0	2.0	-2.294 ^b	0.034	*
子どもの友だち	1.1	1.3	1.0	1.0	-1.732 ^b	0.146	ns
子育て仲間	1.3	1.6	1.0	1.0	-1.617 ^b	0.135	ns
スタッフとの話	1.2	1.1	1.0	1.0	-0.707 ^c	0.727	ns
子どもと一緒に遊ぶ	1.2	1.1	1.0	1.0	-1.265 ^c	0.359	ns
子どもが家ではできない遊び	1.1	1.1	1.0	1.0	0.000 ^d	1.000	ns
子ども向けプログラム	1.4	1.5	1.0	1.0	-0.853 ^b	0.526	ns
子育て講座	1.7	1.4	2.0	1.0	-2.057 ^c	0.046	*
子育て情報	1.4	1.4	1.0	1.0	-0.535 ^b	0.795	ns
子育て相談	1.3	1.3	1.0	1.0	-0.277 ^c	1.000	ns

注1) 1:とてもそう思う 2:だいたいそう思う 3:あまりそう思わない 4:全くそう思わない

注2) b. 負の順位に基づく c. 正の順位に基づく d. 負の順位の合計は正の順位の合計に等しい

注3) ns:有意差無 * (オレンジ色): p < 0.05 有意差有

表 3-3-3 プレ・ポスト調査結果の自由記述の内容分析

大カテゴリ	カテゴリ	コード
子ども (24)	子ども同士・大人との関わり(8)	同年齢・異年齢の子どもとの遊び (5)
		スタッフとの遊び (1)
		たくさんの人との関わり (2)
	良い影響を受けている(4)	良い影響を受けている (1)
		人に興味をもつ (1)
		入園前の良い経験 (1)
		子どもの好きな場所 (1)
	思いっきり遊べる(12)	思いっきり遊べる (4)
		外遊びが充実している (5)
		家ではできない遊び (3)
親 (20)	子育て仲間(5)	サロンで子育て仲間ができた (3)
		転勤して友だちがいなかったが友だち・仲間ができた (2)
	楽しい居場所(4)	サロンの利用が楽しい (4)
	息抜き・ホッとできる場(6)	息抜きの場 (3)
		受け入れてくれる場 (1)
		自由に過ごせる環境 (1)
		幼稚園に行っても来れる居場所 (1)
	楽しい子育て(4)	子育てが楽しくなった (2)
		子どもの遊んでいる姿などを見てうれしい (2)
	地域とのつながり(1)	地域の人とのつながり (1)
居場所 (サロン) (33)	居場所の継続利用(6)	0歳からの利用 (3)
		サロンの利用の継続 (2)
		妊娠中や出産後にも利用しやすい (1)
	スタッフの支援(7)	子どもの見守り (1)
		子育てへのアドバイスや相談 (3)
		話しやすいスタッフ (3)
	居場所の評価(5)	利用する前は不安だったが、利用してよかった (2)
		サロンがあってよかった (1)
		感謝 (2)
	期待や願い(5)	子どもの成長の場 (1)
		いろいろ体験できる場 (1)
		サロンの普及 (1)
		子どもが参加できるプログラム (1)
		すべり台の安全管理 (1)
	利用できない理由(10)	最近利用できない (1)
		仕事を始めた (1)
		保育園に行くようになった (1)
		上の子の幼稚園などの送迎 (2)
		下の子のお昼寝 (1)
		引っ越しして遠くなった (1)
タイミングが合わない (1)		
駐車場が遠い (1)		
午前火・水曜日のみ (1)		


注) () の数字は記述数

表 3-4 利用者のグループ・インタビュー調査結果の内容分析

大カテゴリ	中カテゴリ	カテゴリ	コード	
利用するきっかけ (23)	利用する前の状況 (15)	転勤・引っ越しによる孤立感 (6)	転勤・引っ越しで友だちがいなかった (4)	
			孤独だった (2)	
		親子の居場所を利用していなかった (5)	スマホなどで調べるだけだった (2)	
			情報を得たが開催してなくて利用できなかった (1)	
			家で親子だけで遊ぶのでどうしようかと思っていた (1)	
	きっかけ (8)	ほかの親子の居場所になじめなかった (4)	他の居場所などは利用していない (1)	
			ほかの広場に行ったがなじめなかった (4)	
			ベビーマッサージやヨガでの紹介 (2)	
		口コミ (5)	公園で他の母親から教えてもらう (2)	
			夫の同僚からの誘い (1)	
チラシ (2)	他の施設や回覧板のチラシ (2)			
楽しそうな場所 (1)	子どものおもちゃがあり、楽しそうだった (1)			
親子に関する評価 (27)	子どもの成長・発達 (13)	子どもの成長・発達の変化 (4)	子どもの友だちができた (1)	
			子どもが楽しみにしている (1)	
			子どもの成長の変化 (2)	
		子どもの発達に応じた関わり (3)	子どもの年齢や特性に応じた関わり (3)	
			身体活動のできる広い場所 (3)	広い場所でのびのびと体を動かすことができる (3)
	親同士の交流 (14)	外遊び・季節に応じた遊び (3)	ダイナミックで自然体験ができる外遊び (2)	
			季節ごとの遊び (1)	
		親同士の支え合い (4)	親同士の声かけなどが心の支え (4)	
			親からの子育て方法 (3)	親同士の情報交換 (1)
				先輩の母親から子育て方法を習得 (2)
子育て講座からの子育て方法 (4)	子育て講座で子どもとの関わり方を学んだ (4)			
スタッフ・居場所評価 (22)	スタッフの親への支援 (17)	子どもへの適切な対応 (7)	子どもに関わるスタッフ (2)	
			子どもに対する適切な声かけ・対応 (5)	
		親の心の支え (6)	親に関わるスタッフによる支え (2)	
			ホッとする声かけ (2)	
			話を聞いてもらえる (2)	
	下の子どもの託児 (2)	下の子を見てもらえるので、上の子と遊べる (2)		
	情報提供 (2)	スタッフからの情報提供 (2)		
	居場所の環境 (5)	適切な遊び環境 (1)	子どもの年齢に合わせた遊具と遊び場 (1)	
		適切な居場所運営 (2)	適切な居場所の運営 (2)	
居場所の利便性 (2)		近くて利用しやすい場所 (2)		

注) () の数字は記述数

参考文献

- 1) 岡山市『子ども・子育て支援に関するアンケート調査報告（概要版）』岡山市ホームページ（2021年閲覧）<https://www.city.okayama.jp/shisei/cmsfiles/contents/0000003/3109/000374282.pdf>.
 - 2) NPO 法人岡山市子どもセンター・岡山市地域子育て支援課『平成31年度「岡山市就学前親子の居場所」に関する調査報告書』2020.
※この調査報告書は、岡山市子どもセンターのホームページにて公開しています。
<http://www.kodomo-npo.jp/>
- 
- 3) 子育て支援者コンピテンシー研究会編『育つ・つながる 子育て支援 具体的な技術・態度を身につける32のリスト』チャイルド本社，2009.
 - 4) 渡辺顕一郎・橋本真紀編『詳解 地域子育て支援拠点ガイドラインの手引（第3版）—子ども家庭福祉の制度・実践を踏まえて—』中央法規出版，2018.
 - 5) 厚生労働省子ども家庭局長『児童館ガイドラインの改正について（通知）』厚生労働省ホームページ，（2021年9月閲覧）<https://www.mhlw.go.jp/content/11906000/000361016.pdf>.
 - 6) おかやま地域子育て支援拠点ネットワーク（ももっこネット）『子育て親子の居場所づくりのしおり～地域における子育て支援の充実に向けて～』2013.

おわりに

子どもの育ちや子育てをめぐる環境の変化により、子育てに不安感や孤立感などを感じる人が増えており、子どもの育ちと子育てを社会全体で支援する必要性がますます高まっています。こうした課題を解決していくために、地域の身近な場所で、子育て親子が気軽に集い、相互交流や子育ての不安・悩みを相談できる場を提供することが大切です。

今回、ニーズ調査を踏まえて岡山市市民協働推進事業「就学前親子の居場所づくり事業」として「みんな和やかサロン」を運営してきました。サロンの開催場所が地域の方も利用されている幼稚園跡地であったことから、それぞれの活動時間や使用方法について何度も協議しました。その結果、地域の方と日常のあいさつをはじめ、夏の水遊びのためのテント張りなど、居場所の運営に協力していただける良い関係を築くことができました。

また、わが子が遊ぶ様子を周りの親やスタッフとともに見守ることで、子どもは安心して自分のやりたい遊びができるようになり、友だちとも関わりながら遊び育つ居場所になっていきました。「『第二の実家』のように居心地の良いホッと息抜きできる場です」「不安だったけど、スタッフさんが笑顔で迎えてくれて嬉しかったです」「今まで、あちこち転勤してきたけど、岡山がいちばんよかったわ」「転勤が決まり寂しいけれど、サロンでたくさんのお母さんやスタッフから愛情をもらい、見守り育ててもらったことは、本当に嬉しかったです」などの親からの言葉がありました。

今回の事業では、サロンの実践について評価(効果)を明らかにするために支援者・利用者を対象に調査も実施しました。これらの実践と評価を参考に、本報告書を活用し、拠点事業をはじめ類似事業において、それぞれのPDCAサイクルを実践していくことで、より良い居場所運営につなげ、子育て支援の向上に寄与できれば幸いです。

新型コロナウイルス感染症の拡大により、改めて子どもたちが豊かに育つうえで、多様な人や地域とのつながりが重要であることが再認識されています。地域の身近な居場所は、子どもたちを育み、親や高齢者などみんなが子どもたちとともに育っていく場所です。私たちは、みんな和やかサロンの取組を通して就学前親子の居場所は、親の子育て不安を解消し、子どもが多くの関わりの中で健やかに成長できるように、利用者に寄り添って運営することが大切であると実感しました。本報告書の作成に関わった方、読者の方、みんなでそうした居場所をつくっていただくと願っています。

最後に、居場所の利用者、スタッフ、地域の方々をはじめ、事業に関わったすべての方々に感謝いたします。

令和3年度岡山市市民協働推進事業

つくる つながる 子育て支援

～岡山市就学前親子の居場所の望ましいあり方に関する報告書～

発行：令和4年3月

岡山市

岡山っ子育成局子育て支援部 地域子育て支援課

〒700-8544 岡山市北区大供一丁目1番1号

T E L. 0 8 6 - 8 0 3 - 1 2 2 4

特定非営利活動法人

岡山市子どもセンター

〒701-0144 岡山市北区久米348番地

T E L. 0 8 6 - 2 4 2 - 1 8 1 0

E-mail. info@kodomo-npo.jp

HP



Facebook



Instagram



